



琉球大学医学部 2025概要



大学院／医学研究科・保健学研究科
医学部／医学科・保健学科

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS
GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE,
GRADUATE SCHOOL OF HEALTH SCIENCES,
FACULTY OF MEDICINE
SCHOOL OF MEDICINE,
SCHOOL OF HEALTH SCIENCES
GUIDE BOOK 2025

南に開かれた国際性豊かな 医学部



大学院医学研究科長・医学部長

中西 浩一

Dean,
NAKANISHI Koichi, M.D, Ph.D.

本学部の基本理念 FOUNDED CONCEPT OF THE FACULTY

琉球大学医学部は、医学と保健学に関する専門の知識と技術を修得し、高い倫理性を身につけ、医学・医療の進歩や社会的課題に柔軟に対応しうる医師、保健・医療従事者を育成することを基本目的としています。

加えて、沖縄県のおかれた自然、地理及び歴史的特性をふまえ、島嶼環境に由来する困難な地域保健医療の充実や地域特性に根ざした医学・医療の課題解決に努めると共に、アジア・南太平洋地域を中心とする南に開かれた国際性豊かな医学部を目指しています。

The essential purpose of the Faculty of Medicine is to nurture physicians and medical science specialists who are willing to develop their specialized knowledge and skills with high ethical standards in professional research areas, and to carry out the research in all fields of medicine and medical science by responding adequately to the latest progress and social problems.

In addition, the Faculty is obligated to improve medical care in the local community, to resolve medical and health care problems, and to extend its promotional activities to countries in the Asian and Pacific regions based on recognition of the natural environmental conditions, geographic location and historical situation in the Ryukyu Islands.

目次

本学部の基本理念	02	8. 附属施設	30
アドミッションポリシー	04	LABORATORY CENTERS	
医学部・病院移転事業	06	9. 学生の定員・現員及び入学状況	32
		QUOTA AND ADMISSION OF STUDENTS	
1. 沿革	08	10. 卒後の主な就職先	33
HISTORY		MAIN PLACES OF EMPLOYMENT	
2. 歴代学部長・研究科長	12	11. 解剖体	34
SUCCESSIVE DEANS		AUTOPSIES FOR GROSS ANATOMY	
3. 教育・研究の特色	13	12. 図書・学術雑誌	34
EDUCATION, RESEARCH		COLLECTION OF BOOKS AND JOURNALS	
4. 社会貢献・国際交流	21	13. 各講座等主要研究	35
SOCIAL CONTRIBUTIONS AND INTERNATIONAL EXCHANGE		OUTLINE OF MAIN RESEARCH PROJECTS	
5. 組織図	24	14. 土地・建物、建物配置図	40
ORGANIZATION CHART		CAMPUS AND BUILDINGS	
6. 職員	26		
ACADEMIC AND ADMINISTRATIVE STAFFS			
7. 講座及び分野配置図	29		
DEPARTMENTS AND SUBJECTS MAP			



医学科・大学院医学研究科



保健学科・大学院保健学研究科

医学科 School of Medicine

保健学科 School of Health Sciences

- 医学科は、以下の資質を備えている人を求めています。
- 【一般選抜】

 - 地域医療に貢献するための県民・地域住民意識をもてる人
 - 生命現象や国内外の医学・医療に強い関心がある人
 - 責任感が強く、人の身になって考え、行動できる人
 - 常に自己点検を行い、自己啓発ができる人
 - 創造性に富み、物事を理論的に整理・展開できる人
 - 医学を学ぶ基礎学力を有する人
 - 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶことができる人
- 【学校推薦型選抜Ⅱ】

(大学入学共通テストを課す)(地域枠、離島、北部枠)

 - 沖縄県の地域医療に貢献するための県民・地域住民意識をもてる人
 - 地域の要請が高い診療科を選択し、診療科偏在の是正に貢献できる人
 - 生命現象や国内外の医学・医療に強い関心がある人
 - 自分の置かれた社会的・地域的立場をしっかりと意識できる人
 - 学習意欲の維持並びに自己学習ができる人
 - 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶことができる人

- 本学科は看護、臨床検査、国際・地域保健等の分野でリーダーシップを発揮し、活躍できる人材の育成を目指します。そのため、以下の資質を備えている人を求めています。
- 生命科学、保健・医療・福祉に強い興味と関心をもち、主体的に学ぶ意欲のある人
 - 生命を尊重し、相手の身になって行動できる人
 - 自らの目標に向かって自己啓発し、多様な人々と協働ができる人
 - 論理的に物事を考え、科学的に解決する意欲のある人

大学院医学研究科 Graduate School of Medicine

大学院保健学研究科 Graduate School of Health Sciences

- 医科学**
(修士課程)
1. 各々の専門分野での経験・知識・技術を活かして、生命医療科学・医療福祉の分野の研究の発展に寄与し、社会に貢献したいと考える人
 2. 医療の専門性を理解し、高度医療職業人として地域特性に対応した医療と福祉に従事することを目指す人
 3. 修士課程での研究を基に、さらに博士課程への進学を志す人
- 医学**
(博士課程)
1. 生命医療科学における次世代のリーダーを目指して深い学識と先駆的な研究能力を培い、国際的な場で活躍する研究者・教育者を志す人
 2. 先端医療を実践するために高度な知識や技術を身に付け、研究マインドを備え、高度専門職業人として地域の医学・医療水準の向上のために指導的な役割を担える臨床医を目指す人

- (博士前期課程・博士後期課程共通)
- 心身ともに豊かな健康・長寿に資する高度な研究能力を有し、多くの人々の疾病予防と健康増進及び健康資源の解明に貢献する研究マインドをもった研究者及び指導者、そして高度専門職業人として、国内外で活躍することを志す人を求めています。
- (博士前期課程)
1. 広い視野に立った研究能力を有する保健学分野の教育・研究者及び指導者を目指す人
 2. 保健学分野の高度な専門的知識と技術をさらに深く学ぼうとする人
 3. 専門的な知識や技術を活かして、地域及び国際社会に貢献したい人
 4. 保健学分野の高度専門職業人を目指す人
- 例：専門看護師、養護教諭(専修免許)、研究開発能力を有する臨床検査技師
- (博士後期課程)
1. 沖縄の豊かな島嶼・海洋性、亜熱帯自然環境及び社会環境を基盤とする卓越した保健学研究を目指す人
 2. 健康・長寿の維持増進及び再生や健康資源の開発に関する卓越した研究を目指す人
 3. アジア太平洋諸国との国際学術交流を図り、島嶼国際保健に関する卓越した研究を目指す人

医学部・病院の移転事業が完了しました！

琉球大学医学部及び病院は、令和7年にキャンブ瑞慶寛(西普天間住宅地区跡地)に移転しました。
医学部及び病院では、“国際化”、“人材育成”、“先端研究・産業振興”、“医療水準の向上”を移転構想の柱とし、沖縄振興や長寿県沖縄の復活、国際保健(グローバル・ヘルス)への貢献を目指しています。また、この計画は、駐留軍用地跡地利用の先行モデルとして注目されています。



西普天間キャンパス(西側)2025年7月現在

移転構想

国際化

～未来を拓く国際性豊かな医療拠点～

国際水準の教育と医療の実現、また研究体制の構築に向け、国際医療拠点に相応しい機能と設備の整備を進めます。

- 医学部と大学病院の国際認証の取得
- 国内外の大学、医療機関、企業等との積極的な連携
- 国際医療拠点に相応しい病院環境の整備
- 保育園、授乳室、障がい者対応施設等のダイバーシティ(多様性)に対応したアメニティの充実

先端研究・産業振興

～世界に誇れる医学研究拠点の形成と産業振興～

沖縄特有の環境や資源を活かしつつ、最先端分野の研究の充実を図るとともに、人材が集まる組織の枠を超えた研究組織の構築を目指します。

- 先端医学研究センターを中心とした創薬等の最先端分野の研究
- 医工連携による医療機器等の開発
- 国、企業、近隣大学、研究機関から優秀な人材が集まる仕組みの構築
- 産業振興による地域の活性化
- 国内・国際学会開催による来訪者の増加

人材育成

～国際的な医療人材の育成と交流拠点の形成～

ニーズに柔軟に対応でき、また国際的に通用する教育システムの構築を進めるとともに、国内外大学等との連携体制の強化を図ります。

- グローバルな視野をもった医療者、医学研究者の育成
- 研究マインドを身に付けさせるための学部段階からの研究室配属
- 看護部と保健学科の連携による高度実践看護師の育成
- 海外大学と連携したクリニカルクラークシップ(臨床参加型実習)の充実
- 大学病院内における教育スペースの確保

医療水準の向上

～高度医療の提供による拠点形成～

中核病院としてがんや救急医療、また移植医療等への対応強化を図るとともに、災害対応や遠隔診療等の更なる充実により医療水準の向上を目指します。

- 化学療法や放射線治療分野の充実によるがん治療成績の向上
- 高度救命救急センターの設置
- 生体肝移植等の移植医療の充実
- 先進的医療に対応した手術室の充実
- 日帰り手術、光学診療等の充実による低侵襲治療の推進
- 沖縄県地域医療支援センターを拠点とした離島・へき地医療の充実

一部ご紹介



沖縄健康医療推進基金のご協力をお願い

移転に先立ち、学生及び皆様へ、より快適で安全な医学教育・研究・診療環境を提供するために、沖縄健康医療推進基金を設立しました。
皆様のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。



昭和44年

保健学部校舎
(那覇市与儀)



昭和48年

保健学部及び附属病院
の鳥瞰図
(那覇市与儀)



昭和54年

医学部の設置



昭和55年

与儀キャンパス
医学部校舎(旧保健
学部校舎)及び医学
部附属病院



昭和40年8月	佐藤栄作総理大臣が来沖し「琉球大学に医学部を設置する」との声明がなされた。	昭和45年6月	琉球大学設置法の一部改正により新那覇病院は琉球大学附属病院となった。	昭和56年4月	保健学部が医学部保健学科に改組。保健学部附属病院は医学部附属病院となった。 April,1981 The Faculty of Health Sciences, University of the Ryukyus, and its Hospital were reorganized into the School of Health Sciences, Faculty of Medicine, and Hospital of the Faculty of Medicine, University of the Ryukyus.	昭和59年3月	授乳施設、管理棟、附属図書館医学部分館、高エネルギー・高気圧治療施設棟が竣工した。
12月 December,1965	琉球政府内に琉球大学医学部設置構想委員会が設置された。 The Committee for Planning the Faculty of Medicine, University of the Ryukyus, was organized by the Government of the Ryukyu Islands.	昭和47年5月 May,1972	本土復帰に伴い琉球大学附属病院は、琉球大学保健学部附属病院となった。 The Hospital of the University of the Ryukyus was reorganized into the Hospital of the Faculty of Health Sciences, University of the Ryukyus, when the administration of Ryukyu was returned to Japan from the U.S. government.	4月	医学部医学科31講座のうち8講座(解剖学第一、生理学第一、生化学第一、病理学第一、寄生虫学、内科学第一、外科学第一、眼科学)が先行設置され、保健学科は 4大講座(基礎保健学、保健管理学、保健医療学、保健技術学)に再編成された。	4月	医学科に6講座(病理学第二、ウイルス学、内科学第三、脳神経外科学、泌尿器科学、麻酔科学)が設置され、計28講座となった。医学部及び附属病院の事務部が一元化され医学部事務部となったことに伴い、事務組織が改編され事務部長、事務部次長、4課制(総務課、管理課、学務課、医事課)となった。
昭和41年7月	第一次琉球大学医学部設置調査団が来沖し、「医療の基礎的条件を整備するための基本的態度と医療要員の要請に関する準備的措置要領」が発表された。	昭和49年11月	地域医療部、救急部、理学療法部が随時設置され、総合病院として承認された。	4月	昭和56年度入学式(医学科100名、保健学科59名)が行われた。 April,1981 Students (100 medical and 59 health sciences students) were enrolled for the first term at the newly established Faculty of Medicine.	7月	7月1日～10月14日、新病院移転・開院準備のため休診となった。 7月1日～8月2日、附属病院が上原団地へ移転した。医学部施設竣工並びに医学部附属病院の開院記念式典が挙行された。
11月 November,1966	第二次調査団が来沖し、次の4原則が確立された。 1.県立中部病院をインターン指導の教育病院とする。 2.琉球大学に保健学部を新設する。 3.那覇病院を改築し、教育病院とする。 4.公衆衛生の施策を強化する。 The Japanese Government investigation committee for establishment of the Faculty of Medicine, University of the Ryukyus, visited Okinawa and made the following four announcements: 1. A postgraduate medical education program will be established at the Okinawa Chubu Hospital. 2. A Faculty of Health Sciences will be newly founded in the University of the Ryukyus. 3. Naha Hospital will be renovated for adapting the postgraduate medical education program. 4. Public health programs will be facilitated.	昭和50年3月	臨床研修指定病院となった。	10月	医学部開学記念式典並びに祝賀会が開催された。	10月	医学部附属病院 (400床)の完成に伴い、診療を再開した。
昭和42年1月	琉球政府は、行政主席の諮問機関として、琉球大学医学部設置準備委員会を設置し、教育機能と地域医療機能を併有する新病院建設基本構想を検討した。	昭和53年10月	解剖体保存棟が保健学部敷地内に完成した。	昭和57年4月	医学科に7講座(解剖学第二、薬理学、法医学、内科学第二、小児科学、放射線医学、整形外科学)が設置され、計15講座となった。	昭和60年3月	体育館、多目的運動場が竣工した。
5月	本土側施設整備専門部会と沖縄側専門委員会が新那覇病院建設計画について討議し、将来は、医学部教育病院としての機能を持ち、当面は保健学部の実習も兼ねた総合病院とすることになった。	昭和54年1月	医学部の昭和54年10月設置、昭和56年4月学生受け入れが内定した。	10月	基礎講義実習棟、解剖法医棟及びポンプ室が竣工した。	4月	医学科に3講座(生化学第二、精神神経科学、歯科口腔外科学)が設置され、計31講座となった。附属病院に第三内科が新設され、計17診療科となった。附属病院の病床数が200床増床され、計600床となった。
昭和43年5月 May,1968	琉球大学設置法の一部改正により保健学部(定員数60名)が設置された。 The Faculty of Health Sciences was founded by the Government of the Ryukyu Islands (Enrollment quota was 60 students), based on a royal revision of the act for incorporating the University of the Ryukyus.	2月	沖縄県は献体組織“琉球大学でいご会”を結成した。	12月	解剖学、生理学、生化学の講義及び実習が上原団地で開始された。	6～7月	附属病院の200床増床に伴い、病棟移転が行われた。
昭和44年4月 April,1969	保健学部の第一期生59名が入学した。 Fifty-nine students enrolled for the first term in the Faculty of Health Sciences.	3月	沖縄県は、財団法人琉球大学医学部設置協力会を設置した。 国立学校設置法の一部改正により昭和54年10月琉球大学医学部が設置された。(医学科31講座)また、昭和 56年4月学生受け入れ(定員数医学科100名、保健学科60名)が決定した。	昭和58年2月	基礎研究棟及び保健学科棟が竣工した。	昭和61年4月 April,1986	琉球大学大学院保健学研究科(保健学専攻、修士課程) が設置された。(定員10名) The Graduate School of Health Sciences (Master's degree program) was founded. (Enrollment quota was 10 students)
		昭和55年8月	本学の関連教育病院(県立中部病院)について本学学長と沖縄県知事の間で協定を締結した。	3月	保健学科及び医学科基礎系講座が上原団地へ移転した。福利棟(がじゅまる会館)が竣工した。	4月	保健学科の入学定員が臨時的に5名増員され、計65名となった。 附属病院に高気圧治療部が設置された。
		10月	大学設置審議会大学設置分科会(浅田敏雄主査他4名)による医学科実施調査が行われた。	4月	医学科に7講座(生理学第二、細菌学、保健医学、皮膚科学、外科学第二、産科婦人科学、耳鼻咽喉科学)が設置され、計22講座となった。	昭和62年3月	RI診療棟が竣工した。
		昭和56年3月	第1回医学部解剖体慰霊祭が解剖体保存棟前で行われた。	10月	RI・動物実験施設が竣工した。		
				12月	臨床講義棟、附属病院、中央設備機械室が竣工した。		
				昭和59年1月	臨床研究棟が竣工した。		

昭和57年

建設中の医学部及び
附属病院
(西原町上原)



昭和58年

医学部及び附属病院の
全景
(西原町上原)



平成6年

旧与儀キャンパス跡の
記念碑建立
(那覇市与儀)



昭和62年4月	琉球大学大学院医学研究科(博士課程)(形態機能系専攻、生体制御系専攻、環境生態系専攻)が設置された。(定員数30名)	平成10年3月	附属地域医療研究センターが廃止された。	平成18年2月	リハビリテーションセンター(作業療法棟)が竣工した。	平成26年2月	台湾の台北医学大学と部局間交流協定を締結した。
April,1987	The Graduate School of Medicine (Doctoral degree program) was founded. (Enrollment quota was 30 students)	4月 April,1998	附属沖縄・アジア医学研究センターが設置された。 The Okinawa-Asia Research Center of Medical Sciences was founded.	10月	大韓民国の延世大学校と部局間国際交流協定を締結した。モンゴルのモンゴル保健総合大学と部局間国際交流協定を締結した。南アフリカ共和国のケープタウン大学と部局間国際交流協定を締結した。	3月	フィリピン共和国のフィリピン大学公衆衛生校と部局間交流協定を締結した。
7月	タイ国のチェンマイ大学と学術交流協定を締結した。	平成11年4月	附属病院に周産母子センターが設置された。医学科の入学定員が95名となった。	平成19年3月	附属病院がエイズ診療拠点病院に指定された。	4月	大学院医学研究科博士課程の2専攻を改組し、医学専攻が設置された。(定員数30名)
昭和63年4月	附属地域医療研究センターが設置された。(10年期限)	平成12年4月	附属病院に病理部が設置された。保健学科の入学定員の臨時募集が廃止され、計60名となった。	4月 April,2007	大学院保健学研究科が改編され、修士課程が博士前期課程に、博士後期課程が新たに設置された。 The Graduate School of Health Sciences (Doctoral degree program) was founded.	10月	ラオス人民民主共和国のラオス保健科学大学と部局間交流協定を締結した。
April,1988	The Research Center of Comprehensive Medicine was founded in this decade.	平成13年4月	医学科に臨床薬理学講座が新設され、計33講座となった。 附属病院に光学医療診療部が設置された。 医学科に第3年次特別編入学(学士入学)制度が導入された。(定員数5名)	平成20年2月	附属病院が都道府県がん診療連携拠点病院に指定された。	11月	救急災害医療棟が竣工した。
平成元年3月	リニアック診療施設棟が竣工した。	中国の広西医科大学と部局間交流協定を締結した。	平成14年4月	4月	事務組織が改編され、医学部事務部、附属病院事務部〔事務部長、4課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課)〕となった。	12月	沖縄県地域医療支援センターが設置された。
5月	附属病院に輸血部が設置された。	平成15年3月	医学科に救急医学講座が新設され、計34講座となった。	平成21年4月	医学科に第2年次特別編入学(学士入学)制度が導入された。(定員数5名)医学科の入学定員が7名増員され(内2名は9年期限)、計102名となった。	平成27年2月	附属病院に救急科が設置された。
平成2年3月	附属地域医療研究センター棟が竣工した。	4月	附属沖縄・アジア医学研究センターが廃止された。理学療法部が廃止された。	11月	附属病院が沖縄県肝疾患診療連携拠点病院に指定された。	3月	附属病院に形成外科が設置された。
6月	医学科に臨床検査医学講座が新設され、計32講座となった。	医学科は34小講座が6大講座(形態機能医科学、地域環境医科学、病態解析医科学、生体制御医科学、器官病態医科学、高次機能医科学)に、保健学科は4大講座が6講座(基礎看護学、成人・老年看護学、母子看護学、地域看護学、生体検査学、病態検査学)にそれぞれ再編成された。 大学院医学研究科の3専攻が改組され医科学専攻(先進情報医科学領域、機能再生医科学領域、環境長寿医科学領域)及び感染制御医科学専攻(独立専攻)(感染分子生物学講座、分子感染制御学講座、感染病態制御学講座)が設置された。 リハビリテーション部が設置された。	平成16年4月	平成22年4月	大学院医学研究科が大学院講座化(部局化)され、医科学専攻(3コース、33講座)、感染制御医科学専攻(1コース、8講座)に再編された。 医学科の第3年次特別編入が廃止された。 医学科の入学定員が5名増員され、計107名となった。 附属病院に骨髄移植センターの設置が認可された。	4月	医学科の入学定員が5名増員され、計112人となった。 大学院医学研究科にウイルス学講座、臨床研究教育管理学講座が新設され、計42講座となった。 再生医療研究センターが設置された。 附属病院の検査部と輸血部が統合され、検査・輸血部が設置された。
11月	医学部開学10周年記念式典が行われた。	平成17年4月	事務組織が改編され、事務部長、経営企画監、5課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課、学務課)となった。	平成23年1月	附属病院に寄附講座(地域医療システム学講座、地域医療教育開発講座)が設置された。	平成28年4月 8月 10月	附属病院にリハビリテーション科が設置された。 臨床工学室が設置された。 在宅医療推進センターが設置された。
平成2年3月	MRI-CT装置棟が竣工した。 精神病棟(40床)が承認された。(一般病床から精神病棟へ) 中華人民共和国の中山医科大学と学術交流協定を締結した。 附属実験実習機器センターが設置された。 The Research Laboratory Center was founded.	平成24年3月	琉球大学は国立大学から国立大学法人となった。大学院医学研究科修士課程医科学専攻が設置された。 The University of the Ryukyus was reorganized by the National University Corporation from the National Universities. The Graduate School of Medicine (Master's degree program) was founded.	4月	事務組織が改編され、事務部長、5課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課、学務課)となった。	平成29年9月	超音波センターが設置された。 シンガポール共和国の南洋理工大学と部局間交流協定を締結した。
March,1991	The Research Laboratory Center was founded.	April,2004	事務組織が改編され、事務部長、経営企画監、5課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課、学務課)となった。	12月	卒後臨床研修センター・血液浄化療法部棟が竣工した。	平成30年4月	形成外科学講座が新設された。 インドネシア共和国のアイルラング大学と部局間交流協定を締結した。 大韓民国の高麗大学と部局間交流協定を締結した。
4月	医学部医学科に3学期制が導入された。	平成17年4月	事務組織が改編され、事務部長、経営企画監、5課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課、学務課)となった。	平成24年3月	おきなわクリニカルシミュレーションセンターが竣工した。	11月	医学教育分野別認証評価認定を受けた。
平成5年4月	附属動物実験施設が設置された。 Institute for Animal Research was founded.	平成17年4月	事務組織が改編され、事務部長、経営企画監、5課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課、学務課)となった。	4月	病理診断科が設置された。	令和2年4月	事務組織が改編され、上原キャンパス事務部(事務部長、総務課、企画課、管理課、医事課、学務課)となった。 先進医療創成科学講座が新設された。 琉球大学医学部附属病院から琉球大学病院に改称。
April,1993	Institute for Animal Research was founded.	平成17年4月	事務組織が改編され、事務部長、経営企画監、5課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課、学務課)となった。	12月	卒後臨床研修センター・血液浄化療法部棟が竣工した。	令和3年9月	インドネシア共和国のマタラム大学と部局間交流協定を締結した。
5月	英国医学協会(GMC)より海外有資格医師の限定登録の認可を受けた。	平成17年4月	事務組織が改編され、事務部長、経営企画監、5課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課、学務課)となった。	平成24年3月	おきなわクリニカルシミュレーションセンターが竣工した。	令和6年3月	大韓民国の高神大学校と部局間交流協定を締結した。
12月	高嶺徳明顕彰碑が建立された。	平成17年4月	事務組織が改編され、事務部長、経営企画監、5課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課、学務課)となった。	4月	病理診断科が設置された。	令和7年1月	琉球大学病院(620床)の完成に伴い、病院が西普天間キャンパスへ移転した。
平成6年8月	特定機能病院として承認された。	平成17年4月	事務組織が改編され、事務部長、経営企画監、5課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課、学務課)となった。	平成25年2月	機能画像診断センターが竣工した。	4月	医学部及び関連施設の完成に伴い、医学部等が西普天間キャンパスへ移転した。
平成7年4月	附属病院に血液浄化療法部が設置された。	平成17年4月	事務組織が改編され、事務部長、経営企画監、5課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課、学務課)となった。				
平成9年4月	附属病院に医療情報部が設置された。	平成17年4月	事務組織が改編され、事務部長、経営企画監、5課制(総務課、経営企画課、経営管理課、医療支援課、学務課)となった。				

2 歴代学部長・研究科長

Successive Deans

保健学部長

松林久吉 (初代保健学部長)	昭和45年 9月
松崎吉彦	昭和48年 9月
西山 勇	昭和50年 9月
杉浦正輝	昭和52年 9月
照屋寛善	昭和54年 9月

医学部長

大鶴正満 (初代医学部長)	昭和54年 10月
永盛 肇	昭和62年 4月
大澤 炯	平成3年 4月
茨木邦夫	平成5年 4月
平山清武	平成9年 4月
柊山幸志郎	平成10年 4月
岩政輝男	平成12年 4月
坂梨又郎	平成16年 4月
佐藤良也	平成20年 4月
須加原一博	平成23年 4月
松下正之	平成25年 4月
石田 肇	平成29年 4月
筒井正人	令和3年 4月
中西 浩一	令和7年 4月

大学院保健学研究科長

大鶴正満 (初代大学院保健学研究科長)	昭和61年 4月
竹中 静廣	昭和62年 4月
石津 宏	平成元年 4月
竹中 静廣	平成3年 4月
宮城一郎	平成4年 4月
普天間 弘	平成6年 4月
崎原盛造	平成7年 4月
石津 宏	平成10年 4月
河野伸造	平成12年 4月
外間登美子	平成16年 4月
高倉 実	平成22年 4月
福島卓也	平成26年 4月
小林 潤	令和2年 4月
平井 到	令和6年 4月

大学院医学研究科長

佐藤良也 (初代大学院医学研究科長)	平成22年 4月
須加原一博	平成23年 4月
松下正之	平成25年 4月
石田 肇	平成29年 4月
筒井正人	令和3年 4月
中西 浩一	令和7年 4月

3 教育・研究の特色

Education, Research

琉球大学医学部は、日本で最も新しい国立大学医学部として1981年(昭和56年)に設立されました。医学部には医学科と保健学科が、大学院には医学研究科(修士・博士課程)と保健学研究科(博士前期・後期課程)が置かれています。医学科は、2010年(平成22年)に大学院講座化されました。

琉球大学医学部と琉球大学病院は、2025年(令和7年)、宜野湾市西普天間地区に移転しました。移転の目的は、新キャンパスに「沖縄健康医療拠点」を形成し、沖縄県の健康長寿の復活と産業振興を図ることです。①高度医療・研究機能の拡充、②地域医療水準の向上、③国際研究交流、医療人材育成の3つを柱とした構想が国主導で進められました。

教育



本医学部では、医学と保健学に関する専門の知識と技術を修得し、高い倫理性を身につけ、近年の医学・医療の急速な進歩や社会的課題に柔軟に対応できる医師、保健医療従事者、および研究者を育成しています。また、島嶼県沖縄における地域完結型医療に貢献できる人材を養成するために離島やへき地における病院実習を科目に設け、国際医療の場でリーダーシップを発揮できる人材を養成するために海外で臨床実習や医科学研究を行えるようにしています。このような本医学科の医学教育プログラムは、2018年、日本医学教育評価機構(JACME)から評価基準に適合していると認定されました。大学院では、近年の医学・保健学のダイナミックな変化に対応できる次世代を担う優れた人材を育成しています。

研究

研究面では、我が国唯一の亜熱帯気候であり島嶼環境である沖縄県の地域特性を踏まえて、唯一無二の特色ある研究を推進しています。具体的には、亜熱帯環境下における感染症・寄生虫学研究、沖縄の健康長寿の復興を目指した医学研究、沖縄の生物資源を活用した創薬研究、沖縄に特有の希少疾患の研究、琉球列島の成り立ちと関連した人類遺伝学研究、アジアを主とした国際保健学研究などを行っています。これらの研究を支援する組織として、2015年に再生医療研究センターが、2016年に先端医学研究センターと沖縄バイオインフォメーションバンクが医学部内に設立されました。



社会貢献・国際交流



本学部と本研究科は、医師、保健医療従事者、および研究者を育成することで医学・医療に貢献しています。医学科では2009年から沖縄県の修学資金制度のもとで地域枠の学生を受け入れており、現在、地域枠の第1期生は卒業11年目の医師になっていて、ようやく沖縄県の地域医療への本格的な貢献が始まったところです。本医学部は、国際性豊かな医学部として発展させることを基本目的としており、本医学部と本研究科は、国際研究交流を積極的に推進しています。医学科の臨床実習では、北米、欧州、アジアの医学部と提携して学生を相互に派遣しています。大学院では、大学院生に海外での研究の機会を与えたり、外国人を大学院生として受け入れたりしています。また、最近、保健学研究科に、JICAの留学生を対象とした英語コースを新設しました。

医学教育企画室

医学教育企画室(OME: Office of Medical Education)は医学教育の質の向上を図ることを最大のミッションとしています。現在の医学教育では、医学の知識と確かな技術を基盤として、患者中心のケア、チーム医療の推進、継続的な学習と自己研鑽が求められています。OMEは、そのような時代の要請に沿った教育を提供するため、カリキュラムの改善や評価、学生主導の学習法の推進、臨床実習の支援、全国的な共用試験の支援を行っております。具体的には、CBT(コンピューターを用いた医学知識に関する試験)やOSCE(臨床技能と能力を評価するための試験)などの試験の支援、多職種連携のためのシミュレーション演習、将来のキャリアを考える医学概論、患者・家族と接する実習、離島地域病院実習、Team-Based Learning(チームでの学習を重視した教育法の一つ)形式での

学習、参加型臨床実習の調整、医学教育に関する教員研修などです。卒業試験に代わる医師国家試験形式の総合試験の実施にも関わっております。

また令和5年度からは、ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業も担当しております。専任教員3名と医療の各領域を代表する38名の企画室教員(兼任)が医学生と向き合い、医師や医療系専門職の育成に努めております。



長寿県沖縄の島嶼地域医療人材養成(保健学科)

保健学科は国際的視点をもつ地域貢献の人材育成、また沖縄の地域を理解した国際貢献できる人材育成というグローバルな人材育成を行っています。看護師、保健師、助産師、養護教諭を養成する看護コースと臨床検査技師、健康食品管理士を養成する検査技術コースからなります。離島を含めた僻地保健医療、高齢化社会、特有の風土病策、子供の貧困と母子保健、増加する観光客と移住による外国人といった沖縄県の抱える様々な健康課題を理解し対応できる人材を育成しています。

学生は経験豊かな教員陣から広範囲な知識を得る一方、早い時期から地域医療機関での実習を行うことで、高い実践力を養い、地域に根付いた医療ができるよう実力を蓄えていきます。講義と琉球大学病院の実習だけでなく、地域

病院や保健関係施設での研修を積極的にカリキュラムに導入し、地域貢献の視点を養っています。さらに貧困問題・高齢化社会・地球温暖化など同様な課題を抱える東南アジアや太平洋島嶼地域の国々との交流を経て、異文化理解やグローバルな視点から地域問題を考えていく力を養います。



公衆衛生看護実習 公民館で学生の健康教育

アジア・太平洋地域との学術交流(保健学研究科)

保健学研究科は、人間健康開発学と国際島嶼保健学2領域で構成されており、沖縄県の社会文化的環境および亜熱帯性自然環境を基盤とした健康・長寿の維持増進および再生に資する研究や、健康資源の解明に関する研究、アジア・太平洋地域の島嶼・僻地・地域保健の課題とその対策に関する研究などのユニークなテーマに取り組んでいます。この2つの領域は互いに融合し、亜熱帯性自然環境を基盤とした研究から得られた成果は、アジア・太平洋・アフリカ諸国での保健医療の増進に寄与するだけでなく、沖縄における異文化理解の力をもった保健医療者としての人材の育成にも貢献しています。

また、保健学研究科の特別プログラム(Okinawa Global Health Science Program)は、JICA(国際協力機

構)開発大学院連携プログラムにも登録されており、アジア、太平洋、アフリカ各国から多数の留学生を受け入れています。この受け入れはアジア・太平洋諸国の多数の研究機関と交流協定を締結し、共同研究を推進していく中で実現したものです。留学生だけでなく日本人大学院生の特別プログラムへの積極的参加をはかることによって相互学習の環境が整っています。保健学研究科修了生は、グローバルヘルスの分野で活躍しています。



医学研究科・保健学研究科

医学研究科は、医学・医療のダイナミックな変化や社会のニーズに対応できる自己改革力と生涯学習力を身につけた人材を育成することを目的としています。博士課程では、健康長寿や新興感染症など沖縄の地域に根ざした問題、近年著しく進歩している再生・再建分野の研究、ゲノム解析とその医療への応用等、研究プロジェクトに対応したコースワーク・リサーチワークを編成しています。修士課程でも、この新しい教育課程を取り入れ、博士課程と連携した体系的な教育プログラムを提供しています。

保健学研究科は、1986年に国立大学2番目の保健学専攻の大学院として設置された伝統ある研究科で、数多くの優

れた人材を輩出して沖縄県の公衆衛生の向上、保健医療の発展のために多大な貢献をしてきました。2007年に博士課程を設置し、現在の保健学研究科保健学専攻博士前期課程・博士後期課程となりました。本研究科は、心身ともに豊かな健康・長寿に資する高度な研究能力を有する保健学分野の研究者および指導者を養成することを目指しています。修了生の多くは県内の保健医療機関、行政のリーダー、教育に携わる大学教員として活躍していますが、県外の研究機関や国際的な保健活動に活躍する人材も輩出しています。また、がん看護専門看護師養成コース、学校保健ヘルスプロモーションコース、Okinawa Global Health Science Programをもち、専門性の高い看護師養成に力を入れています。

臨床教育(琉球大学病院)

琉球大学病院は、地域医療の中核を担うとともに、「病める人の立場に立った質の高い医療の提供と、地域・社会に貢献する優れた医療人の育成」という理念のもと、臨床教育にも力を入れています。学生から研修医、専門職として活躍する医療人まで、それぞれの段階に応じた教育プログラムを提供し、実践的スキルと豊かな人間性を備えた医療従事者の育成を目指しています。

医学部学生には、医学教育企画室が中心となり、地域医療実習、臨床実習、クリニカルクラークシップの実践や、指導医のFDを行っています。

初期研修医に対しては、臨床研修センターが「医師として必要な基本的臨床能力を身につけ、全人的かつ科学的根拠に基づく医療の実践」を目的に初期研修を運営し、

教育熱心な指導医のもと、社会のニーズに応える医師の養成を図っています。

専門医や看護師、薬剤師、技師などの育成では、キャリア形成支援センターが中心的役割を担い、専門医の育成・生涯教育、多職種のキャリア形成を支援しています。専門医制度対応、指導医育成、研修会の企画・実施、復職支援や生涯教育支援など、多岐にわたるサポートを提供しています。また、医師に限らず、看護師、薬剤師、検査・放射線技師、リハビリセラピスト、臨床工学技士など、多職種を対象とした教育・研修も計画的に実施し、質の高いチーム医療の実現を目指しています。特に看護師特定行為研修に力を入れ、多くの修了生を輩出しています。

シミュレーション教育 おきなわクリニカルシミュレーションセンター

おきなわクリニカルシミュレーションセンターは、沖縄県の寄付により平成24年3月に開設し、医学部・病院移転に伴い、令和7年に現在の場所に設置された医療シミュレーション教育施設です。シミュレーターを用いての技術の習得や、シミュレーション演習を通じてチーム医療の向上を目指したトレーニングなどを行うことができます。そうした訓練は沖縄県内の医療水準の向上にも貢献しています。学部教育においては、一年次よりシミュレーションを取り入れた演習を行なっています。

そのほか、当施設の事業として沖縄県内の研修医向けのトレーニング、シミュレーション教育指導者向けのセミナー、県内小中高生向けの医療者体験イベントなどを開催しています。また、県内外の医療機関や医療教育施設などから幅広く利用されています。

年間およそ延べ1万人以上の利用があり、当施設でシミュレーション教育の技能を習得した指導者が県内全域で活躍しています。各種情報については<http://okinawa-clinical-sim.org/>をご参照ください。



管理棟 シミュレーションセンター

研究における特色①

沖縄県の特徴を活かした疾患家系による精神神経疾患の病態解明



大学院医学研究科

松下 正之 分子・細胞生理学講座 教授

精神・神経疾患の多くは分子病態が不明で、より良い治療や理解のために研究が必要です。

特に、精神疾患の研究の問題は、診断が難しいことです。例えば同じ統合失調症という名前の病気でも、原因は様々だということがわかってきました。したがって、研究を行うためには原因が同じような患者さんを研究することが有効です。ただし、原因の違いは熟練した診察医であっても分類が難しいものです。そこで、一つの切り口が家族性の発症例です。沖縄県は島嶼地域であり人の移動が比較的少なく、疾患の多発する家族を対象にする研究に向いています。体質的に特定の疾患に罹患しやすい家族は疾患の原因となるゲノム変異を有している可能性があります。琉球大学には地域と密接な医療のネットワークがあり、私たちは県内の多くの病院や診療所などと共同でまだ原因不明な疾患の研究を推進したいと考えています。

精神・神経研究のもう一つの問題は、脳を生きた状態で取り出して調べることができないことです。近年iPS細胞技術の開発により、患者さんの血液をとり、血液に含まれる細胞を実験室で操作してiPS細胞を樹立することが

できるようになりました。iPS細胞は培養条件や人工的に遺伝子を発現させることで神経細胞やグリア細胞など、脳を構成する細胞に分化させて、顕微鏡で観察することができます。このようにして作り出された脳の細胞に神経伝達物質や候補となる治療薬を添加して、模擬的に反応をしらべることができます。

私たちは、沖縄県で家族性に発症している患者さんの血液を採取し、iPS細胞から神経系細胞を作成し、疾患の仕組みと原因を研究しています(図1)。ここで得る知見は家族以外の一般の患者さんの病態とも広く共通する点があり、治療法の開発に役立ちます。このように家族例での発見を一般例に拡大するアプローチは、アルツハイマー病やパーキンソン病でも歴史的に成功していて有効です。私たちはこれまで代表的な精神疾患である双極性障害(図2)、統合失調症、および沖縄県に多い稀少神経疾患の沖縄型神経原性筋萎縮症を対象に同様の戦略で研究を行ってきました。iPS細胞と様々な解析技術を駆使して、疾患の発症メカニズムの理解、そして診断／予防／治療／創薬につながる研究を日々展開しています。

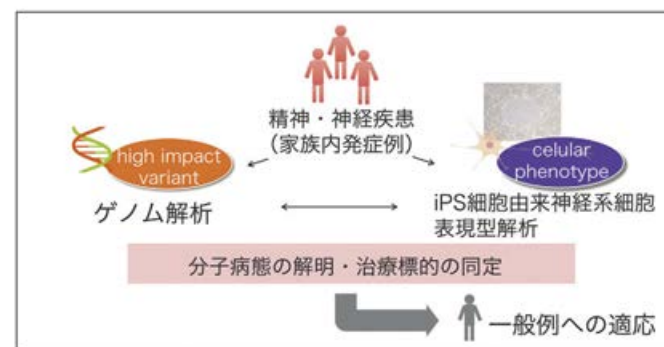


図1. 研究の概要

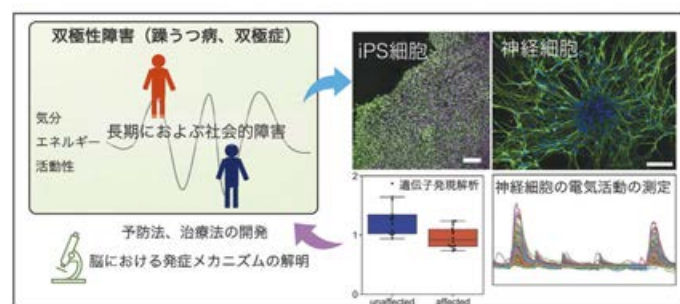


図2. 双極性障害の研究内容

研究における特色②

成人T細胞白血病／リンパ腫の免疫表現型に関する包括的研究



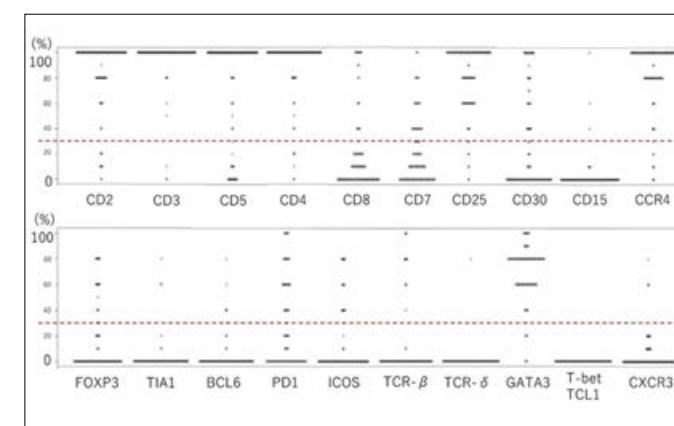
大学院医学研究科

和田 直樹 腫瘍病理学講座 教授

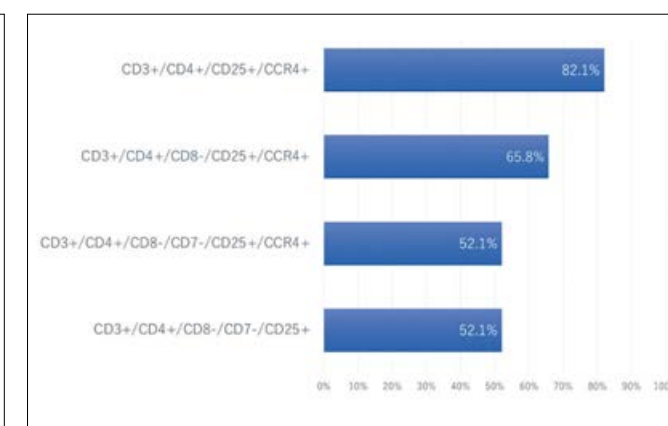
成人T細胞白血病／リンパ腫(ATLL:Adult T-cell Leukemia/Lymphoma)は、Tリンパ球(T細胞)という白血球の一種ががん化する血液の腫瘍です。この病気はヒトT細胞白血病ウイルス1型(HTLV-1)というウイルスに感染することが原因で起こります。HTLV-1はレトロウイルスという種類のウイルスで、日本では特に九州・沖縄地方に多いとされています。ATLLを診断する際、病理検査では免疫表現型というものを調べます。典型的なATLLの免疫表現型は、一般的な成書によると次の通りです。CD2, CD3, CD5, CD4, CD25というマーカーは陽性免疫表現型として、CD7, CD8というマーカー、細胞傷害性マーカーは陰性免疫表現型として、CD30, CCR4, FOXP3というマーカーは部分陽性免疫表現型として記載されています。しかし、これらのマーカーの免疫表現型だけでなく、もっと多種多様なマーカーの免疫表現型に関する包括的研究は少ないです。また、個々の症例で腫瘍細胞におけるそれぞれのマーカーの免疫表現型が陽性の割合に関する知見も乏しいです。

本研究では、ATLLの包括的な免疫表現型を明らかにするため、117例のATLLに対して21種類の免疫染色[免疫表現型を調べる方法]を実施しました。そして、117例のATLLに対する21種類の免疫染色結果についてドットチャートを作成しました[図1]。1ドットが1症例にあたります。これらの結果は、ATLLの免疫表現型が多様なことを示しています。一般的な成書ではATLLとして非典型的な免疫表現型とされる場合でもATLLの可能性を除外すべきではないことを示しています。例えばCD3, CD4, CD25, CCR4の4つのマーカーがいずれも陽性を示すのは、ATLLの典型的な免疫表現型として一般的な成書で記載されていますが、今回の研究結果によると約20%の症例はこのパターンに当てはまらないことが判明しました[図2]。従って、非典型的な免疫表現型を示す場合でもATLLの可能性を除外せずに、病変組織中のゲノムDNAにHTLV-1の遺伝子情報が腫瘍性に組み込まれているのを確認することが推奨されます。

[図1]



[図2]



研究における特色③

形態病理学分野の研究、教育と人材育成について



保健学科

金城 貴夫 生体検査学講座 形態病理学分野 教授

私は保健学科の金城貴夫と申します。私は在学中から研究に興味があり、母校の病理学教室で研究者としての第一歩を踏み出しました。病理学教室では、研究とは別に病理診断を行っており、手術や検査で採取された患者さんの病変を顕微鏡で観察し、診断する役割を担っています。病理診断を通じて全身の様々な病変について勉強しましたが、その中で興味を惹かれたのがカポジ肉腫です。カポジ肉腫はAIDSとの関連でよく知られています。AIDS関連型カポジ肉腫は皮膚や内臓に病変を形成し急速に拡がります。一方で、沖縄には古典型カポジ肉腫が多く、病変は高齢者の皮膚に局限し、進行も緩徐で自然消退する事さえあります。何故ここまで臨床像が違うのかという驚きと疑問が、今日まで研究を継続する契機となっています。私は東大医科研やアメリカのNational Institutes of Healthに留学しましたが、沖縄と日本を客観的に見る機会となりました。そこで気づいた事は、沖縄の疾患には特徴があるという事です。これはあくまで私個人の考えですが、留学で学んだ知識と技術を生かして沖縄の疾患の特徴を明らかにする事、さらにこの研究成果を県民に還元する事が琉球大学の研究者の使命の一つであると考え

ています。勿論研究には様々なものがあり、私は多様な研究に対して敬意を払っています。

当教室の研究ではカポジ肉腫に加えて、様々な沖縄県の腫瘍性疾患について研究を行い、国際学術雑誌で発表しています。特に私達が2019年に発表したカポジ肉腫の論文はウイルス学の世界的なレファレンスであるFields Virologyに引用されました。

当教室の担当科目は、解剖学・組織学、病理学や病理組織細胞学等で、いずれも座学に加えて実習を行います。解剖学実習では献体していただいた方々の体を実際に観察し勉強します。

これまで卒業研究を指導した学生は71名、私の研究指導で学位を取得した大学院生は13名です。その内1名は当教室の助教として採用され、カポジ肉腫の研究論文で医学博士を取得し、現在はペンシルバニア大学でAssistant Professorとして活躍しています。

当教室では沖縄に根ざした医学研究を展開しつつ、若い人達的能力を引き出し、各自の夢の達成に繋がる様指導しています。研究に興味・熱意のある方を大歓迎いたします。



金城貴夫教授(右から4番目)と教室の皆さん

研究における特色④

成人T細胞白血病・リンパ腫の治療成績向上を目指した研究



保健学科

福島 卓也 病態検査学講座 血液免疫検査学分野 教授

1. ATL/HTLV-1バイオバンクの構築

成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)は、ヒトT細胞白血病ウイルスI型(HTLV-1)感染者(HTLV-1キャリア)の一部に発症する予後不良の血液悪性腫瘍です。沖縄県を含む西南日本はHTLV-1キャリアが最も多く分布している地域で、ATLも好発します。私たちの教室は、ATLの分子病態の解明と治療成績の向上を目指した研究を行ってきました。まず沖縄県の中核病院を結ぶATL研究ネットワークとATL患者およびHTLV-1キャリアから得た細胞、DNA、血清などの生体試料を保存するバイオバンクを設立し、研究の基盤を構築しました。現在では700を超える生体試料を凍結保存しています。

2. ATLの新規バイオマーカーの同定

バイオバンクの血清試料を用いて1300を超える蛋白質の発現を網羅的に解析し(プロテオーム解析)、ATL患者で著明に上昇している新規バイオマーカーとして、可溶性腫瘍壊死因子受容体2型(sTNFR2)を見出しました(図1)。sTNFR2は細胞から外れて血中を浮遊している蛋

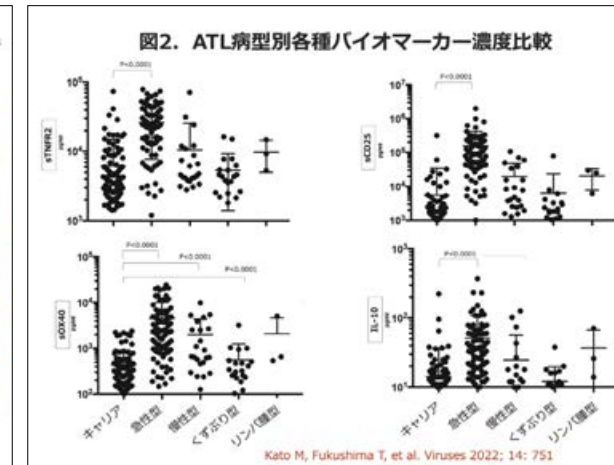
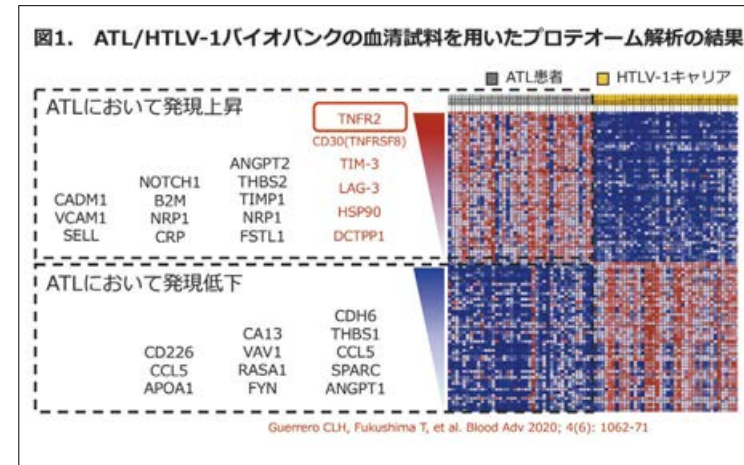
白ですが、ATL細胞表面でTNFR2が高発現しており、sTNFR2がATL細胞に由来していることを明らかにしました。

3. ATLの早期診断法の確立

sTNFR2の高感度な検査法を確立するため、TNFR2を標的とする抗体(抗TNFR2抗体)を9種類作製し、この中からいくつかの抗体を組み合わせることによりsTNFR2濃度を鋭敏に測定するELISA法と、細胞表面のTNFR2発現を解析するフローサイトメトリー法を作製しました。これに従来のATL診断バイオマーカーを組み合わせ、ATLの発症を鋭敏に診断するためのシステムを開発しました(図2)。

4. 今後の展望

自家製の抗TNFR2抗体を用いてナチュラル・キラー(NK)細胞を増幅する系を確立しました。このNK細胞を用いてATLに治療効果の高い細胞免疫療法の開発を目指して研究を進めています。



教育における特色

島医者・山医者・里医者育成プロジェクト



医学部

金城 紀与史 医学教育企画室(ポストコロナ事業)特命教授

沖縄県には離島が多数あり、海で隔てられています。医療者には 守備範囲の広さと緊急性の判断力が求められます。

1. 総合診療能力

離島や僻地の医療機関では大病院のように色々な専門科が必ずしも揃わないこともあります。小規模な離島では診療所に医師一人、看護師一人、事務員一人という体制のところもあります。患者さんの話を聞いて診断をつけ、自分で対応できる範疇であれば治療し、専門家に紹介したほうがよい場合には適切に紹介する必要があります。陸続きでない分、まず最初に見るといふ、守備範囲の広さが期待されるのです。

2. 緊急性の判断

場合によっては、重症な患者さんを緊急で搬送しなければいけないこともあります。CT検査などがない状況でも、患者さんの状態を見て判断します。病歴と診察（たとえば血圧や脈拍、意識状態など）が判断材料として最も重要であり、基本的な診察能力をきちんと身につける必要があります。



腹痛をテーマとした授業で超音波を練習



佐賀大学教員によるプライマリケア演習

3. 他職種との協働

地域医療の現場では、様々な人々が地域の情報を教えてくれます。その地域のエキスパートである彼らと協働します。訪問診療や、学校や高齢者施設に出向いて健康増進や予防について働きかけるのも重要な仕事です。顔の見えるコミュニティで、個々の患者さんの生活に密着した医療を実践することができるのが地域医療の醍醐味です。

4. 琉球大学の地域医療教育

令和4年度から琉球大学は文部科学省の「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の補助を受けて新しいカリキュラムを始めました。低学年では上記1～3を意識しながらグループワークやシミュレーションの手法を取り入れた授業を行います。高学年になると、離島や北部地区、連携校の佐賀大学で実習をすることで様々な地域や現場での医療の姿を実地経験します。

「島医者・山医者・里医者」の魅力を伝えることで、沖縄県の地域医療に貢献する若者が増えることを期待しています。



ハワイ大学教員によるPBLワークショップ



佐賀大学で臨床実習する琉大生と佐賀大生

社会貢献

沖縄県民の健康づくりへの貢献

大学院医学研究科

中村 幸志 公衆衛生学・疫学講座 教授

公衆衛生学は「共同社会の組織的な努力を通して、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的機能の増進をはかる科学・技術(Winslow CEA)」です。医学のなかでは社会医学に分類されます。当講座は、医学部医学科教育においては広く公衆衛生学全般を教授していますが、専門性を持って取り組む研究、大学院教育および社会活動においては生活習慣病対策(主に予防)を主軸に据えています。このため、肥満や多量飲酒などを基盤とする生活習慣病に対処し、健康長寿県の復活を目指す沖縄県内の公衆衛生に関わる諸機関の取り組みと私どもの専門領域が重なり、私どもに参画するようにお声掛けいただいています。

沖縄県保健医療介護部健康長寿課が推進する「健康おきなわ21」という「県民の健康長寿と生きがいに満ちた豊かな人生」の実現のための県民健康づくり運動に関する会議に医師会などの職能団体の代表者、公衆衛生関係組織の代表者などとともに参画し、それぞれの立場で沖縄県の公衆衛生向上について考え、県行政に意見を出し合っています。市町村レベルでは、沖縄市健康福祉部市民健康課が推進する「健康・食育おきなわシティ21」という「ともに生きる心が広がり、いきいきと暮らせるまち」の実現に関する会議にて、職能団体の代表者、公衆衛生関係組織の代表者、市民の生活に関わる団体の代表者、一般市民の代表者などのさまざまな方々とともに同市が取り組むべき施策や進むべき方向性などについて考え、市行政に意見を出し合っています(図1)。このような活動にて当講座は科学的な視点を重視した具申に努めています。

当講座は疫学という人の健康に関するデータサイエンスを得意とし、このアプローチで研究を展開しています。例えば、全国健康保険協会(協会けんぽ)沖縄支部から委託され、県内の民間中小規模事業所の健康診断などのデータを活用し、健康関連問題の実態を数値化して情

報発信しています(図2)。このような研究と社会貢献を兼ねた活動も当講座の特色です。

一般的に医学というと「医療機関での病んだ個人の治療」が想起されますが、医学のなかにも本稿で紹介した領域があり、これに取り組む講座および医師が存在することをご理解いただければ幸いです。



図1.「健康・食育おきなわシティ21」答申書の手交式(左側が筆者、沖縄市健康食育推進会議会長として、於沖縄市役所)

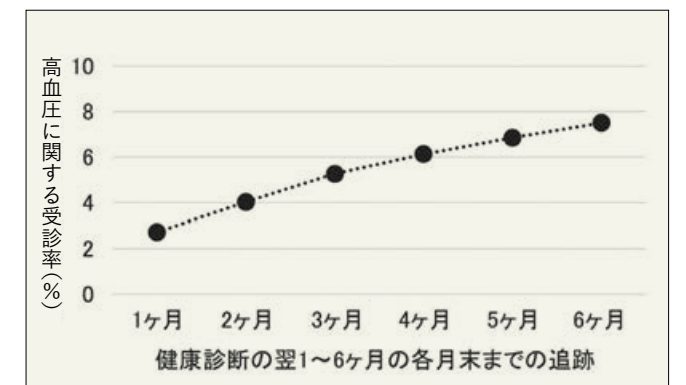


図2. 協会けんぽ受託研究の成果の一部(職域健康診断で新規に高血圧を見出された者の医療機関受診率) 循環器系疾患予防のために沖縄県働き盛り世代の高血圧者を医療につなげる方策が必要であることを示唆しています。(Kudaka S, et al. Hypertens Res 2025;48:168-179)



国際交流

アジア太平洋とつながる保健医療

保健学科

小林 潤 母子看護学講座 国際地域保健学分野 教授

沖縄に位置する唯一の医学部は設立以来、アジア・太平洋地域との国際連携や国際協力を展開してきました。1992年に開始された東南アジアのラオス国への日本政府開発援助のなかでの始めの技術協力プロジェクトとしてJICAプライマリーヘルスケアプロジェクトに参画し、大鶴初代医学部長の牽引のもと多くの教員が参加しました。ラオス国への支援は違った形で受け継がれており、現在ではJICA草の根プロジェクトとして貧困へき地の少数民族を対象とした母子保健プロジェクトの実施や、マラリア寄生虫に関する大型研究プロジェクトへの参画に発展しています。多くの大学院生や学部生がプロジェクトを訪問し、研究を実施し世界に開かれた視野をもつ保健医療人としての経験を積んでいます。

また太平洋に位置する島嶼から形成されている沖縄は、太平洋に位置する他の島嶼と類似した保健課題をもっています。保健学研究科は琉球大学が推進する島嶼科学の一環としてアイランドヘルスを主体とした研究を推進し、多くの島嶼から形成されているフィリピン、インドネシアの大学との共同研究や教育連携に成果を収めてきました。

また2018年度に採択された文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に参画し、グアム大学やマーシャル諸島共和国、ミクロネシア共和国、パラオの保健医療短期大学と連携し遠隔教育の強化と共同研究を実施しました。医学科ではハワイ大学や台北医科大学において短期の研究と臨床の実施を行っています。これは国際水準を満たした医学教育の導入を盛り込んだ一貫として行われています。平成29年には国際認証を受けています。

保健学研究科は外間・高倉前研究科長が英語による大学院教育を開始し、これが発展して2021年に沖縄県内では唯一JICA開発大学院連携に登録されました。これによってアジア太平洋だけでなく、アフリカ・南アジア各国から多くの留学生を受け入れるに至っています。また琉球大学とJICA沖縄の包括協定のもと、保健分野の課題別研修を低中所得国の行政官を対象に年間8本以上継続的に実施してきています。これは沖縄が成果を収めてきた、熱帯病の制圧や島嶼地域での公衆衛生・母子保健の歴史を紹介し、研究科の所属する大学院生を含めて参加者が相互に学ぶ内容となっています。



フィリピンでの保健学科学部生の卒業研究



西側（キャンパスアベニュー）からのキャンパス風景



教育棟（ホスピタルアベニュー側）



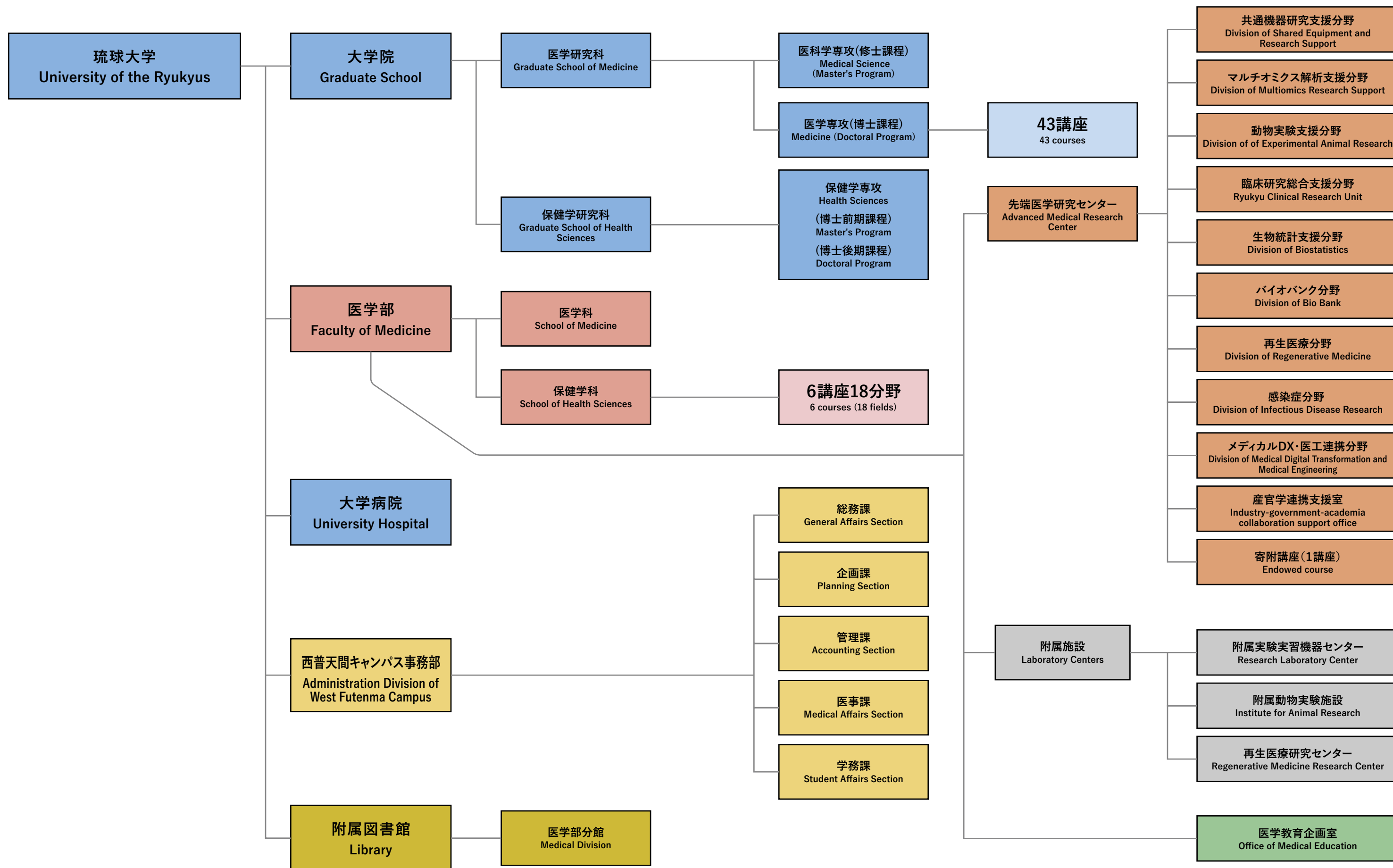
がじゅまるカフェ付近



講義室（一例）



手術室（病院）



大学院医学研究科 Graduate School of Medicine		
医学研究科長(併) Dean	教授 Professor	中西 浩一 NAKANISHI Koichi
医学専攻(博士課程) Medicine(Doctoral Program)		
システム生理学講座 Systems Physiology	教授 Professor	宮 里 実 MIYAZATO Minoru
放射線診断治療学講座 Radiology	教授 Professor	西 江 昭 弘 NISHIE Akihiro
脳神経外科学講座 Neurosurgery	教授 Professor	浜 崎 禎 HAMASAKI Tadashi
眼科学講座 Ophthalmology	教授 Professor	古 泉 英 貴 KOIZUMI Hideki
育成医学講座 Child Health and Welfare	教授 Professor	中西 浩一 NAKANISHI Koichi
耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 Otorhinolaryngology,Head and Neck Surgery	教授 Professor	鈴 木 幹 男 SUZUKI Mikio
精神病態医学講座 Neuropsychiatry	教授 Professor	高江洲 義 和 TAKAESU Yoshikazu
再生医学講座 Regenerative Medicine	教授 Professor	野 口 洋 文 NOGUCHI Hirofumi
先進ゲノム検査医学講座 Advanced Genomic and Laboratory Medicine	准教授 Assoc.Prof.	今村 美菜子 IMAMURA Minako
分子解剖学講座 Molecular Anatomy	教授 Professor	高 山 千 利 TAKAYAMA Chitoshi
ゲノム医科学講座 Medical Genomics	准教授 Assoc.Prof.	小 田 高 也 ODA Takaya
人体解剖学講座 Human Biology and Anatomy	教授 Professor	木 村 亮 介 KIMURA Ryosuke
分子・細胞生理学講座 Molecular and Cellular Physiology	教授 Professor	松 下 正 之 MATSUSHITA Masayuki
薬理学講座 Pharmacology	教授 Professor	筒 井 正 人 TSUTSUI Masato
胸部心臓血管外科学講座 Thoracic and Cardiovascular Surgery	教授 Professor	古 川 浩 二 郎 FURUKAWA Kojiro
麻酔科学講座 Anesthesiology	教授 Professor	垣 花 学 KAKINOHANA Manabu
整形外科講座 Orthopedic Surgery	教授 Professor	西 田 康 太 郎 NISHIDA Kotaro
腎泌尿器外科学講座 Department of Urology	教授 Professor	猪 口 淳 一 INOKUCHI Junichi
顎顔面口腔機能再建学講座 Oral and Maxillofacial Functional Rehabilitation		
救急医学講座 Emergency and Critical Care Medicine	教授 Professor	梅 村 武 寛 UMEMURA Takehiro
臨床薬理学講座 Clinical Pharmacology and Therapeutics	准教授 Assoc.Prof.	徳 重 明 央 TOKUSHIGE Akihiro
薬物治療学講座(協力) Pharmacotherapy	教授 Professor	中 村 克 徳 NAKAMURA Katsunori
医化学講座 Medical Biochemistry	教授 Professor	鈴 木 健 夫 SUZUKI Takeo

生化学講座 Biochemistry	教授 Professor	黒 柳 秀 人 KUROYANAGI Hidehito
腫瘍病理学講座 Pathology and Oncology	教授 Professor	和 田 直 樹 WADA Naoki
細胞病理学講座 Pathology and Cell Biology	教授 Professor	川 上 史 KAWAKAMI Fumi
公衆衛生学・疫学講座 Public Health and Epidemiology	教授 Professor	中 村 幸 志 NAKAMURA Koshi
法医学講座 Legal Medicine	教授 Professor	二 宮 賢 司 NINOMIYA Kenji
内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座 Internal Medicine, Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Hematology, Rheumatology	教授 Professor	益 崎 裕 章 MASUZAKI Hiroaki
循環器・腎臓・神経内科学講座 Cardiovascular Medicine, Nephrology and Neurology	教授 Professor	楠 瀬 賢 也 KUSUNOSE Kenya
消化器・腫瘍外科学講座 Digestive and General Surgery	教授 Professor	高 槻 光 寿 TAKATSUKI Mitsuhisa
女性・生殖医学講座 Medical Science of Women and Reproduction	教授 Professor	関 根 正 幸 SEKINE Masayuki
微生物学・腫瘍学講座 Microbiology and Oncology	教授 Professor	森 直 樹 MORI Naoki
細菌学講座 Bacteriology	教授 Professor	山 城 哲 YAMASHIRO Tetsu
免疫学・寄生虫学講座 Immunology and Parasitology	教授 Professor	岸 本 英 博 KISHIMOTO Hidehiro
皮膚科学講座 Dermatology	教授 Professor	高 橋 健 造 TAKAHASHI Kenzo
感染症・呼吸器・消化器内科学講座 Infectious Diseases, Respiratory Medicine, and Digestive Medicine	教授 Professor	山 本 和 子 YAMAMOTO Kazuko
生体防御学講座(協力) Host Defense	教授 Professor	松 崎 吾 朗 MATSUZAKI Goro
感染免疫制御学講座(協力) Vaccine Research and Development	教授 Professor	新 川 武 ARAKAWA Takeshi
ウイルス学講座 Virology	教授 Professor	大 野 真 治 OHNO Shinji
臨床研究教育管理学講座 Clinical Research and Quality Management		
形成外科学講座 Plastic and Reconstructive Surgery	教授 Professor	清 水 雄 介 SHIMIZU Yusuke
先進医療創成科学講座 Investigative Medicine		

医科学専攻(修士課程)
Medical Sciences (Master's Program)

大学院保健学研究科
Graduate School of Health Sciences

保健学研究科長 (併) Dean	教授 Professor	平 井 到 HIRAI Itaru
---------------------	-----------------	----------------------

保健学専攻(博士前期課程、博士後期課程)
Health Sciences (Master's and Doctoral Program)

人間健康開発学領域 Human Health Promotion	国際島嶼保健学領域 International & Islands Health Sciences
-------------------------------------	--

医学部長(併) Dean		
教授 Professor	中西 浩一 NAKANISHI Koichi	
副医学部長(併) Vice-Dean		
教授 Professor	古 泉 英 貴 KOIZUMI Hideki	
教授 Professor	大 野 真 治 OHNO Shinji	
教授 Professor	関 根 正 幸 SEKINE Masayuki	
教授 Professor	豊 里 竹 彦 TOYOSATO Takehiko	
学部長補佐(併) Assistant to the Dean		
教授 Professor	小 林 潤 KOBAYASHI Jun	
教授 Professor	川 上 史 KAWAKAMI Fumi	
教授 Professor	鈴 木 健 夫 SUZUKI Takeo	
医学科長(併) School of Medicine		
教授 Professor	高 槻 光 寿 TAKATSUKI Mitsuhisa	
保健学科長(併) School of Health Sciences		
教授 Professor	平 井 到 HIRAI Itaru	

保健学科 School of Health Sciences		
基礎看護学講座 Department of Fundamental Nursing		
基礎看護学分野 Fundamental Nursing	教授 Professor	豊 里 竹 彦 TOYOSATO Takehiko
疫学・行動科学分野 Epidemiology and Behavioral Science	教授 Professor	池 原 賢 代 IKEHARA Satoyo
生物統計学分野 Biostatistics	教授 Professor	米 本 孝 二 YONEMOTO Koji

成人・老年看護学講座 Department of Adult and Gerontological Nursing		
成人・がん看護学分野 Adult Health and Cancer Nursing	教授 Professor	照 屋 典 子 TERUYA Noriko
在宅・慢性期看護学分野 Home Care and Chronic Care Nursing	准教授 Assoc.Prof.	関 口 浩 至 SEKIGUCHI Hiroshi
老年看護学分野 Gerontological Nursing	准教授 Assoc.Prof.	東恩納 美樹 HIGAONNA Miki

母子看護学講座 Department of Maternal and Child Nursing		
母性看護・助産学分野 Maternal Nursing and Midwifery	教授 Professor	遠 藤 由 美 子 ENDOH Yumiko

小児看護学分野 Child Health Nursing		
国際地域保健学分野 Global Health	教授 Professor	小 林 潤 KOBAYASHI Jun

地域看護学講座 Department of Community Health Nursing		
地域看護学分野 Community Health Nursing	准教授 Assoc.Prof.	當 山 裕 子 TOYAMA Yuko
精神看護学分野 Mental Health Nursing		
臨床心理・学校保健学分野 Clinical Psychology and School Health	准教授 Assoc.Prof.	喜屋武 享 KYAN Akira
生体検査学講座 Department of Basic Laboratory Sciences		
生体代謝学分野 Biometabolic Chemistry	教授 Professor	原 嶋 奈々江 HARASHIMA Nanae
分子遺伝学分野 Molecular Genetics	教授 Professor	中 尾 浩 史 NAKAO Hiroshi
形態病理学分野 Morphological Pathology	教授 Professor	金 城 貴 夫 KINJO Takao
病態検査学講座 Department of Clinical Laboratory Sciences		
病原体検査学分野 Microbiology	教授 Professor	平 井 到 HIRAI Itaru
生理機能検査学分野 Clinical Physiology	教授 Professor	粟 田 久 多 佳 AWATA Hisataka
血液免疫検査学分野 Hematoimmunology	教授 Professor	福 島 卓 也 FUKUSHIMA Takuya

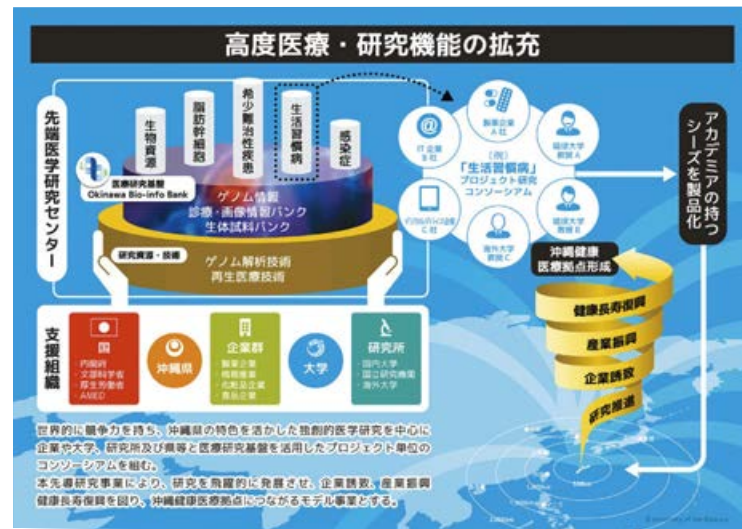
先端医学研究センター Advanced Medical Research Center		
センター長	教授(併) Professor	中西 浩一 NAKANISHI Koichi
共通機器研究支援分野 Division of Shared Equipment and Research Support	教授(併) Professor	鈴 木 健 夫 SUZUKI Takeo
マルチオミクス解析支援分野 Division of Multiomics Research Support	教授(併) Professor	鈴 木 健 夫 SUZUKI Takeo
動物実験支援分野 Division of Experimental Animal Research	教授(併) Professor	野 口 洋 文 NOGUCHI Hirofumi
臨床研究総合支援分野 Ryukyu Clinical Research Unit	教授(併) Professor	高江洲 義 和 TAKAESU Yoshikazu
生物統計支援分野 Division of Biostatistics	教授(併) Professor	米 本 孝 二 YONEMOTO Koji
バイオバンク分野 Division of Bio Bank	准教授(併) Assoc.Prof.	今 村 美 菜 子 IMAMURA Minako
再生医療分野 Division of Regenerative Medicine	教授(併) Professor	高 槻 光 寿 TAKATSUKI Mitsuhisa
感染症分野 Division of Infectious Disease Research	教授(併) Professor	大 野 真 治 OHNO Shinji
メディカルDX・医工連携分野 Division of Medical Digital Transformation and Medical Engineering	特命教授 Specially Appointed Professor	横 田 秀 夫 YOKOTA Hideo
ブレイン・ヘルスケア講座 Department of Brain Healthcare	特命教授 Specially Appointed Professor	石 内 勝 吾 ISHIUCHI Shogo
産官学連携支援室 Industry-government-academia collaboration support office		

医学教育企画室 Office of Medical Education		
室長(併)・教授 Professor	大 野 真 治 OHNO Shinji	

先端医学研究センター Advanced Medical Research Center

先端医学研究センターは基礎研究支援部門と臨床研究支援部門からなり、亜熱帯・島嶼という地理的特性をふまえた本学部の特色ある先端医学研究を支援するため、2016年に設立されました。製薬会社やベンチャー企業等の産業界、日本政府の各省庁、ならびに沖縄県等の地方自治体との産官学連携による沖縄発の医療イノベーションの創出を目指しています。本センターでは、沖縄県民の検体、ヒト脂肪幹細胞等がストックされ、

ヒトゲノム研究、再生医療研究等が行われ成果を上げています。西普天間キャンパスへの移転に伴い整備された先端医学研究センター棟には、本学との共同研究や本学の研究成果を活用する事業等を推進するためにレンタルスペースを設けています。研究機能を強化し、医療水準を向上させ、沖縄健康医療拠点に資するため、今後もさらなる発展が期待されます。



附属実験実習機器センター Research Laboratory Center

当センターは医学部/医学研究科が所有する研究機器の効率的な管理・運用を目的として、1983年に医学部附属共同利用施設として設立されました。2025年より西普天間キャンパスへ移転し、研究機器類・実験室・付随設備の運用と管理、研究棟1階のセミナー室・会議室の運用を行っています。研究基盤統括センター UR-CORE と連携した機器予約・料金徴収システムを運用し、また医学部内の受託解析業務(DNA分析、パイオインフォマティクス解析など)も運営しています。生化学・分子生物学関連の機器として次世代DNAシーケンサー、デジタルPCRシステムに加えて、高分解能質量分析計、分析・分取精製LCシステムなどのマルチオミクス機器を導入し、さらに、学内共用インフラとして生命情報解析サーバーを運営しています。これらの機器や実験研究環境を活用して学内研究の推進に貢献し、さらなる機能強化を図って行きたいと考えています。



研究棟1階セミナー室



共焦点レーザー走査型顕微鏡



Orbitrap Exploris 240質量分析計



QuantStudio Absolute QデジタルPCRシステム

附属動物実験施設 Institute for Animal Research

令和7年のキャンパス移転に伴い、動物実験施設も移転しました。本施設は医学部附属施設ですが、本学唯一の本格的動物実験施設であることから学内共同利用施設として位置付けられており、他学部の研究者及び学生にも開放されています。施設は、臨床・基礎研究棟から独立した鉄筋コンクリートの建物で、通常条件下での動物飼育・実験室のほかに、感染実験動物飼育室、実験室、教員実験室、洗浄滅菌室、事務室等からなっています。実験動物学の研究、教育の発展に対する貢献を目指して施設機能の充実を図っています。



高圧蒸気滅菌装置



個別換気式飼育装置

再生医療研究センター Regenerative Medicine Research Center

沖縄県の再生医療中核拠点として、移転前の上原キャンパスに2015年4月に再生医療研究センターが設置され、同年6月に開所式が行われました。当センターは、ロート製薬(株)から寄贈された2階建ての建物(延床面積812㎡)の1階部分に、沖縄県の先端医療産業開発拠点形成事業で整備された本格的な細胞培養加工施設(Cell Processing Center, (CPC):床面積224㎡)を有しています。この細胞培養加工施設は、合計12のユニットからなる本格的なもので、近年主流になりつつあるアイソレータ方式を採用しています。このアイソレータ内は極めて高い無菌状態となっており、GMP基準に準拠した再生医療用の細胞を調製

できます。2025年に医学部が移転後も、同様のクオリティの施設が先端医学研究センター内に設置されています。

当センターの業務は、細胞培養加工施設を維持管理・運営しつつ、安全な再生医療用の細胞を供給し、医学部附属病院や医療機関、研究機関、企業などと連携して優れた再生医療研究を実用化することです。すでに臨床において間葉系幹細胞を用いた医療を展開してきました。今後も当センターにて実用化された再生医療を多くの患者さんに提供し、沖縄県の健康社会の実現と再生医療の産業化推進に貢献したいと考えています。



9 学生の定員・現員及び入学状況

Quota and Admission of Students

1. 医学部学生の定員及び現員 Quota and Present Number of Medical Students

令和7年5月1日現在 (as of May 1,2025)

学 科	入学定員 ()は内数 2年次編入	収容定員	現 員													
			1年		2年		3年		4年		5年		6年		合 計	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
医学科	116 (5)	696	67	55	89	45	63	54	69	52	52	60	71	53	411	319
			122		134		117		121		112		124		730	
保健学科	60	240	11	51	16	45	17	51	13	45					57	192
			62		61		68		58						249	

2. 医学部入学志願者数及び入学者数 Number of Applicants and Enrollment

令和7年度

学 科	入学定員	入学志願者数			入学者数		
		男	女	合計	男	女	合計
医学科	111	483	403	886	61	50	111
保健学科	60	44	162	206	11	49	60

3. 医学部学生の都道府県別入学状況 Regional Distribution of Enrollment

令和7年度

学 科	沖縄 Okinawa	東京 Tokyo	神奈川 Kanagawa	茨城 Ibaraki	岐阜 Gifu	愛知 Aichi	大阪 Osaka	兵庫 Hyogo	熊本 Kumamoto	その他	合計
医学科	60 (26)	7 (5)	5 (1)	2 (0)	2 (0)	9 (3)	3 (2)	5 (4)	2 (2)	16 (7)	111 (50)
学 科	沖縄 Okinawa	東京 Tokyo	神奈川 Kanagawa	長野 Nagano	広島 Hiroshima					その他	合計
保健学科	56 (45)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)					0 (0)	60 (49)

注：()は女子で内数

4. 大学院学生の定員及び現員 Quota and Present Number of Graduate School Students

令和7年5月1日現在 (as of May 1,2025)

研究科		入学定員	収容定員	現 員									
				1年		2年		3年		4年		合計	
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
医学研究科	修士	15	30	6	0	4	2					10	2
				6		6						12	
	博士	30	120	20	11	12	7	15	10	60	32	107	60
保健学研究科	博士前期	10	20	31		19		25		92		167	
				5	5	5	6					10	11
	10		11									21	
	博士後期	3	9	1					2	2	5	3	9
3				7		12		22					

5. 大学院入学志願者数及び入学者数 Number of Graduate School Applicants and Enrollment

令和7年度

研究科		入学定員	入学志願者数			入学者数		
			男	女	合計	男	女	合計
医学研究科	修士	15	2	2	4	2	2	4
	博士	30	10	6	16	9	4	13
保健学研究科	博士前期	10	5	10	15	3	8	11
	博士後期	3	3	5	8	0	3	3

6. 外国人留学生状況 Number of International Students

令和7年5月1日現在 (as of May 1,2025)

学 科 研究科		1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
医学科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		0		0		0		0		0		1		1	
保健学科		0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
		0		0		0		0						0	
医学研究科	修士	0	0	0	0									0	0
		0		0										0	
	博士	1	0	1	0	0	0	2	0					4	0
		1		1		0		2						4	
保健学研究科	博士前期	1	1	2	2									3	3
		2		4										6	
	博士後期	1	1	0	1	1	0							2	2
2		1		1		4									

10 卒後の主な就職先 (順不同)

Main places of employment

医学科(臨床研修) School of Medicine (Clinical training)

沖縄県内／琉球大学病院、各県立病院、那覇市立病院、浦添総合病院、沖縄赤十字病院、友愛医療センター、ハートライフ病院、中頭病院、中部徳洲会病院、他
県 外／九州大学病院、神戸大学附属病院、聖路加国際病院、横浜市立大学附属病院、札幌東徳洲会病院、自治医科大学附属病院、
広島市立広島市民病院 他

保健学科 School of Health Sciences

沖縄県内／琉球大学病院、県立中部病院、浦添総合病院、、那覇市立病院、中頭病院、中部徳洲会病院、南部療育医療センター 他
県 外／九州大学病院、千葉大学病院、九州医療センター、関西医科大学 他

医学研究科 Graduate School of Medicine

沖縄県内／琉球大学、琉球大学病院、ちゅうざん病院、浦添総合病院 他
県 外／群馬県立精神医療センター、兵庫県立尼崎総合医療センター 他

保健学研究科 Graduate School of Health Sciences

沖縄県内／ 県立中部病院 他

区分 Classification	収集数 Number of Cadavers Gathered	解剖数 Number of Autpsies	実習時間 Practical Period	備 考
平成29年度 (2017)	58	4 3 29	29.4.17 ~ 29.7.28 29.7.3 ~ 29.7.28 29.9.27 ~ 29.12.25	解剖学実習(M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学 解剖学実習(M1)
平成30年度 (2018)	36	2 6 29	30.4.16 ~ 30.8.8 30.7.2 ~ 30.8.8 30.9.28 ~ 30.3.2	解剖学実習(M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学(M6) 解剖学実習(M1)
令和元年度 (2019)	44	3 6 29	31.4.8 ~ 元.8.20 元.7.1 ~ 元.8.2 元.7.17 ~ 2.3.1	解剖学実習(M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学(M6) 解剖学実習(M1)
令和2年度 (2020)	38	2 6 28	2.4.10 ~ 2.8.24 2.7.6 ~ 2.7.29 2.9.23 ~ 2.12.21	解剖学実習(M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学(M6) 解剖学実習(M1)
令和3年度 (2021)	33	2 6 28	3.4.9 ~ 3.8.12 3.7.5 ~ 3.7.30 3.9.22 ~ 3.12.24	解剖学実習(M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学(M6) 解剖学実習(M1)
令和4年度 (2022)	37	2 6 28	4.5.11 ~ 4.8.26 4.7.4 ~ 4.7.29 4.9.21 ~ 4.12.23	解剖学実習(M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学(M6) 解剖学実習(M1)
令和5年度 (2023)	38	3 5 28	5.6.28~5.8.25 5.7.3~5.7.28 5.9.25~5.12.22	解剖学実習(M2・学士) 臨床自由選択人体解剖学(M6) 解剖学実習(M1)
令和6年度 (2024)	47	2 5 28	6.7.29~6.8.20 6.7.1~6.7.25 6.9.25~6.12.22	夏期解剖学特別実習(M2・M3有志) 臨床自由選択人体解剖学(M6) 解剖学実習(M1)

(医学部分館 令和7年4月1日現在)(as of April,2025)

区分 Classification	図書 Books	学術雑誌 Journals
和書 Japanese	55,301冊	2,144種
洋書 Foreign	41,387冊	1,739種
合計 Total	96,688冊	3,883種

大学院医学研究科 Granduate School of Medicine

医学専攻(博士課程) Medicine (Doctoral Program)

講 座	教授名	主要研究概要
システム生理学 Systems Physiology	宮 里 実 MIYAZATO Minoru	神経科学、神経生理学、排尿学、疼痛学、行動科学、行動薬理 Neuroscience, Neurophysiology, Urination, Pain, Behavioral Science, Behavioral Pharmacology
放射線診断治療学 Radiology	西 江 昭 弘 NISHIE Akihiro	放射線診断学、CT、MRI、核医学、IVR、放射線治療 Diagnostic Radiology, Computed Tomography, Magnetic Resonance Imaging, Nuclear Medicine, Interventional Radiology, Radiotherapy
脳神経外科学 Neurosurgery	浜 崎 禎 HAMASAKI Tadashi	脳神経外科、脳腫瘍の外科、脳卒中の外科、頭部外傷の外科、機能神経外科 Neurosurgery, surgery for brain tumor, surgery for cerebrovascular disease, surgery for head trauma, functional neurosurgery
眼科学 Ophthalmology	古 泉 英 貴 KOIZUMI Hideki	黄斑疾患、網膜硝子体疾患、緑内障 Macular Disease,Vitreoretinal Disease,Glaucoma
育成医学 Child Health and Welfare	中 西 浩 一 NAKANISHI Koichi	小児科学、小児腎臓病、遺伝性腎疾患 Pediatrics, Pediatric Nephrology, Hereditary Kidney Disease
耳鼻咽喉・頭頸部外科学 Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery	鈴 木 幹 男 SUZUKI Mikio	側頭骨外科、人工内耳手術、頭頸部腫瘍外科、鼻副鼻腔内視鏡手術、神経耳科、脳機能画像研究 Temporal Bone Surgery, Cochlear Implant, Head and Neck Surgery, Endoscopic Sinonasal Surgery, Neuro-otology, and Human Brain Mapping
精神病態医学 Neuropsychiatry	高江洲 義 和 TAKAESU Yoshikazu	精神薬理学、臨床心理学、精神病理学、予防精神医学、睡眠医学 Psychopharmacology, Clinical psychology, Psychopathology, Preventive Psychiatry, Biological Psychiatry, Sleep Medicine
再生医学 Regenerative Medicine	野 口 洋 文 NOGUCHI Hirofumi	再生医学、細胞治療 Regenerative Medicine, Cell Therapy
先進ゲノム検査医学 Advanced Genomic and Laboratory Medicine	今村 美菜子(准教授) IMAMURA Minako (Assoc.Prof.)	疾患感受性遺伝子研究、集団遺伝学 Genetic Study for Common Disease Susceptibility, Population Genetics
分子解剖学 Molecular Anatomy	高 山 千 利 TAKAYAMA Chitoshi	神経解剖学、神経生物学、発生学 Neuroanatomy, Neurobiology, Embryology
ゲノム医科学 Medical Genomics	小 田 高 也(准教授) ODA Takaya (Assoc.Prof)	ヒトゲノム反復配列の分子生物学的研究 Molecular biological research for the repetitive elements of the human genome
人体解剖学 Human Biology and Anatomy	木 村 亮 介 KIMURA Ryosuke	形質人類学、人類遺伝学、肉眼解剖学、発生生物学 Physical Anthropology, Human Genetics, Gross Anatomy, Developmental Biology
分子・細胞生理学 Molecular and Cellular Physiology	松 下 正 之 MATSUSHITA Masayuki	分子生理学・細胞生理学 Molecular and Cellular Physiology
薬理学 Pharmacology	筒 井 正 人 TSUTSUI Masato	薬理学、一酸化窒素、超硫黄、循環器病学、術前化学療法、メトロノーム化学療法、DNAメチル化酵素、一酸化窒素合成酵素 Pharmacology, Nitric Oxide, Supersulfide, Cardiovascular Medicine, Neoadjuvant Chemotherapy, Metronomic Chemotherapy, DNA methyltransferase, Nitric Oxide Synthase
胸部心臓血管外科学 Thoracic and Cardiovascular Surgery	古川 浩二郎 FURUKAWA Kojiro	心臓血管外科学、呼吸器外科学、一般外科学、人工臓器 Cardiovascular Surgery, General Thoracic Surgery, General Surgery, Artificial Organ
麻酔科学 Anesthesiology	垣 花 学 KAKINOHANA Manabu	呼吸不全、脳・脊髄循環及び代謝、集中治療医学、疼痛管理学 Respiratory Failure, Cerebrospinal Circulation and Metabolism, Intensive Care Medicine, Pain Clinic

医学専攻(博士課程) Medicine (Doctoral Program)

講 座	教 授 名	主 要 研 究 概 要
整形外科学 Orthopedic Surgery	西 田 康太郎 NISHIDA Kotaro	整形外科学、脊椎外科学、骨軟部腫瘍学、関節外科学、手外科学、小児整形外科学、関節リウマチ学、リハビリテーション医学、スポーツ医学、マイクロ手術、内視鏡手術、外傷学、再建外科学 Orthopedic Surgery, Spine Surgery, Bone & Soft Tissue Tumor, Joint Surgery, Hand Surgery, Pediatric Orthopedic Surgery, Rheumatology, Rehabilitation Medicine, Sport Medicine, Micro Surgery, Endoscopic Surgery, Traumatology, Reconstructive Surgery
形成外科学 Plastic and Reconstructive Surgery	清 水 雄 介 SHIMIZU Yusuke	形成外科学、再建外科学、マイクロサージャリー、眼形成外科、先天異常学、幹細胞生物学 Plastic Surgery, Reconstructive Surgery, Micro Surgery, Ophthalmic Plastic Surgery, Teratology, Stem cellbiology
腎泌尿器外科学 Urology	猪 口 淳 一 INOKUCHI Junichi	泌尿器系癌、ロボット支援手術、腹腔鏡手術、排尿機能、小児泌尿器科、腎移植、尿路結石および尿路感染症、骨盤臓器脱、糖鎖生物学、腫瘍マーカー Urologic Oncology, Robot-assited Surgery, Laparoscopic Surgery, Urinary function, Pediatric Urology, Renal Transplantation, Urolithiasis & urinary tract infection, Pelvic Organ Prolapse, Glycobiology, Tumor marker
顎顔面口腔機能再建学 Oral and Maxillofacial Functional Rehabilitation		口腔外科学、口腔科学、口腔腫瘍生物学、社会歯学、再生歯学 Oral surgery, Oral science, Oral tumor biology, Social dentistry, Regenerative dentistry
救急医学 Emergency and Critical Care Medicine	梅 村 武 寛 UMEMURA Takehiro	救急医学、救命救急医学、外傷学、中毒学、災害医学、遠隔医療学 Emergency Medicine, Critical Care Medicine, Traumatology, Toxicology, Disaster Medicine, Telemedicine
臨床薬理学 Clinical Pharmacology and Therapeutics	徳 重 明 央(准教授) TOKUSHIGE Akihiro (Assoc.Prof)	心血管臨床薬理学、心血管内分泌代謝学、一般内科治療学、EBMと臨床試験 Cardiovascular Clinical, Pharmacology and Therapeutics, Cardiovascular Endocrinology and Meta-bolism, General Medicine, Evidence Based Madicine and Clinical Trial
薬物治療学(協力) Pharmacotherapy	中 村 克 徳 NAKAMURA Katsunori	薬物代謝学、薬理遺伝学 Drug metabolism, Pharmacogenetics
医化学 Medical Biochemistry	鈴 木 健 夫 SUZUKI Takeo	分子生物学、ケミカルバイオロジー、遺伝子工学、分子遺伝学 Molecular Biology, Chemical Biology, Genetic Engineering, Molecular Genetics
生化学 Biochemistry	黒 柳 秀 人 KUROYANAGI Hidehito	遺伝子発現制御機構の解明などの基礎研究およびその破綻に起因する疾患の病態発現機序の解明と治療法の開発 Basic research on regulation of eukaryotic gene expression and disease models caused by mutations in gene expression machinery
腫瘍病理学 Pathology and Oncology	和 田 直 樹 WADA Naoki	腫瘍の臨床病理学的解析に関する研究および成人T細胞白血病・リンパ腫(ATLL)に対する診断学的アプローチに関する研究 Study on clinicopathological analyses of tumors and research on diagnostic approaches for adult T-cell leukemia/lymphoma (ATLL)
細胞病理学 Pathology and Cell Biology	川 上 史 KAWAKAMI Fumi	婦人科腫瘍の臨床病理学的解析、分子遺伝学的解析 Clinico-pathological and molecular analysis of gynecological cancers
公衆衛生学・疫学 Public Health and Epidemiology	中 村 幸 志 NAKAMURA Koshi	疫学、生活習慣病(循環器領域)予防、健康増進 Epidemiology, Prevention of Lifestyle-related Disease (e.g., Cardiovascular and Metabolic Disease), Health Promotion
法医学 Legal Medicine	二 宮 賢 司 NINOMIYA Kenji	法医病理学、法医中毒学 Forensic Pathology, Forensic Toxicology
内分泌代謝・血液・膠原病内科学 Internal Medicine, Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Hematology, Rheumatology	益 崎 裕 章 MASUZAKI Hiroaki	内科学、内分泌・代謝病学、糖尿病学、血液病学、膠原病・リウマチ学 Internal Medicine, Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Hematology, Rheumatology
循環器・腎臓・神経内科学 Cardiovascular Medicine, Nephrology and Neurology	楠 瀬 賢 也 KUSUNOSE Kenya	内科学、循環器病学、腎臓病学、高血圧学、神経病学、脳卒中学、臨床疫学、人工知能 Internal Medicine, Cardiology, Nephrology, Hypertension, Neurology, Strokology, Cincinal Epidemiology Artificial Intelligence
消化器・腫瘍外科学 Digestive and General Surgery	高 槻 光 寿 TAKATSUKI Mitsuhsa	一般外科学、消化器外科学、乳腺内分泌外科学、小児外科学 General Surgery, Digestive Surgery, Breast and Endocrine Surgery, Pediatric Surgery
女性・生殖医学 Medical Science of Women and Reproduction	関 根 正 幸 SEKINE Masayuki	婦人科腫瘍学、生殖医学、周産期医学、婦人科手術学、内視鏡下手術 Gynecologic Oncology, Reproductive Medicine, Perinatal Medicine, Gynecologic Surgery, Endoscopic Surgery

医学専攻(博士課程) Medicine (Doctoral Program)

講 座	教 授 名	
微生物学・腫瘍学 Microbiology and Oncology	森 直 樹 MORI Naoki	ウイルスおよび細菌関連腫瘍における発がん機構の解析とその予防・治療法の開発 Analysis of Mechanisms for Viral and Bacterial Pathogens-associated Carcinogenesis, and Development of Novel Molecular-targeted Prevention and Therapy of Malignancy
細菌学 Bacteriology	山 城 哲 YAMASHIRO Tetsu	病原細菌における病原因子の解明・制御に関する研究および疫学的研究 Studies on pathogenesis and epidemiology and control of the bacteria causing tropicaldiseases
免疫学・寄生虫学 Immunology and Parasitology	岸 本 英 博 KISHIMOTO Hidehiro	寄生虫及び感染症の免疫学的、分子生物学的研究 Immunological research for Parasites infection and infectious diseases
皮膚科学 Dermatology	高 橋 健 造 TAKAHASHI Kenzo	皮膚科学、皮膚腫瘍、皮膚老化、皮膚の角化、琉球地方の皮膚病、ハンセン病、皮膚病のマイクロバイオーム Dermatology, Skin Cancer, Skin aging, Keratinization, Skin diseases of the Ryukyus, Hansen dusease, Microbiome of skin diseases
先進医療創成科学 Investigative Medicine		分子生物学、細胞生物学、免疫学、ウイルス学、腫瘍生物学、腫瘍診断および治療学 Molecular biology, Cell biology, Immunology, Virology, Tumor biology, Tumor diagnostics and therapeutics
感染症・呼吸器・消化器内科学 Infectious Diseases, Respiratory Medicine, and Digestive Medicine	山 本 和 子 YAMAMOTO Kazuko	感染症学、呼吸器病学、消化器病学、抗微生物療法学、臨床微生物学 Infectious Diseases, Respiratory Medicine, Digestive Medicine, Antimicrobial Chemotherapy, Clinical Microbiology
生体防御学(協力) Host Defense	松 崎 吾 朗 MATSUZAKI Goro	結核などの細菌感染症に対する防御免疫機構の解明 Protective Immunity and its Regulation against Infections of Mycobacteria and Other Bacteria
感染免疫制御学(協力) Vaccine Research and Development	新 川 武 ARAKAWA Takeshi	感染症ワクチン研究開発(主に家畜動物と水産養殖魚対象) Vaccine research and development against infectious diseases of animals and fishes
ウイルス学 Virology	大 野 真 治 OHNO Shinji	ウイルス宿主間相互作用、ワクチン開発、ウイルス疫学 Virus-Host Interaction,Vaccine Development,and Viral Epidemiology
臨床研究教育管理学 Clinical Research and Quality Management		臨床研究のデザイン・データ管理・解析・品質管理 Study design, Data management, Biostatics and Quality management for Investigator-initiated Clinical Research

琉球大学大学院医学研究科・医学部・
大学病院研究概要

琉球大学医学部・大学院医学研究科・
大学病院では様々な研究を行っています。
各講座等の研究内容については、
医学部HPからご確認ください。



医学部HP
<https://www.med.u-ryukyu.ac.jp/category/research-brief>

医学部保健学科

School of Health Sciences in Faculty of Medicine

基礎看護学

Department of Fundamental Nursing

分 野	教 授 名	主 要 研 究 概 要
基礎看護学 Fundamental Nursing	豊 里 竹 彦 TOYOSATO Takehiko	基礎看護学、看護教育 Fundamental Nursing, Nursing Education
疫学・行動科学分野 Epidemiology and Behavioral Science	池 原 賢 代 IKEHARA Satoyo	疫学、公衆衛生学、行動科学、ライフコースアプローチ Epidemiology, Public Health, Behavioral Science, Life Course Approach
生物統計学 Biostatistics	米 本 孝 二 YONEMOTO Koji	生物統計学 Biostatistics

成人・老年看護学

Department of Adult and Gerontological Nursing

分 野	教 授 名	主 要 研 究 概 要
成人・がん看護学 Adult Health and Cancer Nursing	照 屋 典 子 TERUYA Noriko	成人看護学、がん看護学、緩和ケア Adult Health Nursing, Cancer Nursing, Palliative Care
在宅・慢性期看護学 Home Care and Chronic Care Nursing	関口 浩至(准教授) SEKIGUCHI Hiroshi (Assoc.Prof.)	慢性呼吸器疾患患者および災害脆弱者に対する津波避難方法に関する研究、訪問看護看護師の教育システムに関する研究、自発呼吸トライアル中の呼吸補助筋活動に関する研究 Research on tsunami evacuation methods for chronic respiratory disease patient and disaster vulnerable people, Research on the educational system for home care nurses, Research on accessory respiratory muscle activity during spontaneous breathing trial
老年看護学 Gerontological Nursing	東恩納 美樹(准教授) HIGAONNA Miki (Assoc.Prof.)	老年看護学 Gerontological Nursing

母子看護学

Department of Maternal and Child Nursing

分 野	教 授 名	主 要 研 究 概 要
母性看護・助産学 Maternal Nursing and Midwifery	遠 藤 由 美 子 ENDOY Yumiko	母性看護学、助産学 Maternity Nursing, Midwifery
小児看護学 Child Health Nursing		小児看護学、母子看護学 Child Health Nursing, Maternal and Child Health Nursing
国際地域保健学 Global Health	小 林 潤 KOBAYASHI Jun	国際保健学 Global Health

地域看護学

Department of Community Health Nursing

分 野	教 授 名	主 要 研 究 概 要
地域看護学 Community Health Nursing	當 山 裕 子(准教授) TOYAMA Yuko (Assoc.Prof.)	公衆衛生看護学、地域看護学 Public Health Nursing, Community Health Nursing
精神看護学 Mental Health Nursing		精神看護学、精神保健学 Mental Health Nursing, Mental Health
臨床心理・学校保健学 Clinical Psychology and School Health	喜屋武 享(准教授) KYAN Akira (Assoc.Prof.)	学校保健学、社会疫学、行動疫学、健康教育学 School Health, Public Health, Social Epidemiology, Behavioral Epidemiology, Health Promotion and Education

生体検査学

Department of Basic Laboratory Sciences

分 野	教 授 名	主 要 研 究 概 要
生体代謝学 Biometabolic Chemistry	原 嶋 奈々江 HARASHIMA Nanae	生化学、分子細胞生物学、腫瘍免疫学 Biochemistry, Molecular and cell biology, Tumor Immunology
分子遺伝学 Molecular Genetics	中 尾 浩 史 NAKAO Hiroshi	分子遺伝学、細菌学 Molecular Genetics, Bacteriology
形態病理学 Morphological Pathology	金 城 貴 夫 KINJO Takao	病理学、臨床細胞学、実験病理学、沖縄県の感染症の病理学的及び分子生物学的解析 Pathology, Clinical Cytology, Experimental Pathology, Molecular and Pathological Analysis of Infectious Diseases in Okinawa

医学部保健学科

School of Health Sciences in Faculty of Medicine

病態検査学

Department of Clinical Laboratory Sciences

分 野	教 授 名	主 要 研 究 概 要
病原体検査学 Microbiology	平 井 到 HIRAI Itaru	微生物学、腸内細菌学 Microbiology, Intestinal Bacteriology
生理機能検査学 Clinical Physiology	粟 田 久多佳 AWATA Hisataka	腎臓病学、生理機能検査学 Nephrology, Clinical Physiology
血液免疫検査学 Hematoimmunology	福 島 卓 也 FUKUSHIMA Takuya	血液学、成人T細胞白血病、リンパ腫の臨床研究及び分子生物学的研究 Hematology, Clinical Study and molecular biology of adult T-cell leukemia-lymphoma

先端医学研究センター

Advenced Medical Research Center

分 野	教 授 名	主 要 研 究 概 要
共通機器研究支援分野 Division of Shared Equipment and Research Support	鈴 木 健 夫 SUZUKI Takeo	分子細胞生物学、生化学、病理学、医療情報学 Molecular Cell Biology, Biochemistry, Pathology, Medical Informatics
マルチオミクス解析支援分野 Division of Multiomics Research Support	鈴 木 健 夫 SUZUKI Takeo	ケミカルバイオロジー、システム生理学、分子生物学 Chemical Biology, Systems Biology, Molecular Biology
動物実験支援分野 Division of Experimental Animal Research	野 口 洋 文 NOGUCHI Hirofumi	発生遺伝学、マウス発生工学 Developmental Genetics, Mouse Genetic Engineering
臨床研究総合支援分野 Ryukyu Clinical Research Unit	高江洲 義 和 TAKAESU Yoshikazu	臨床研究立案、計画作成、実施支援、データ管理、解析、品質管理、文書作成、臨床研究トレーニング、教育プログラム作成 Support for Clinical Research Planning, Protocol Development, Conducting, Data Management & Analysis, Quality Management & Assurance, Medical Writing, Clinical Research Training, Development of Education Program
生物統計支援分野 Division of Biostatistics	米 本 孝 二 YONEMOTO Koji	生物統計学 Biostatistics
バイオバンク分野 Division of Bio Bank	今村 美菜子(准教授) IMAMURA Minako (Assoc.Prof.)	沖縄バイオインフォメーションバンク構築、生活習慣病関連ゲノム研究、標準ゲノム配列情報整備 Construction of Okinawa Bio Information Bank, Genetic Study for Life-style Related Diseases, preparation of the reference Panel Sequence for The Okinawa Population
再生医療分野 Division of Regenerative Medicine	高 槻 光 寿 TAKATSUKI Mitsuhsisa	再生医療、細胞治療 Regenerative Medicine, Cell Therapy
感染症分野 Division of Infectious Disease Research	大 野 真 治 OHNO Shinji	感染症における、病原性解明に関する研究、疫学的研究、及び創薬・診断キット開発に関する研究 Researches on pathogenecity, epidemiology, and development of therapeutic molecules and diagnostics for infectious diseases
メディカルDX・医工連携分野 Division of Medical Digital Transformation and Medical Engineering	横 田 秀 夫(特命教授) YOKOTA Hideo (Specially Appointed Professor)	医工学、デジタルトランスフォーメーション、人工知能 Medical Digital transformation, Medical Engineering, AI
ブレイン・ヘルスケア学講座(寄附) Department of Brain Healthcare	石 内 勝 吾(特命教授) ISHIUCHI Shogo (Specially Appointed Professor)	健康長寿学、ブレイン・ヘルスケア、脳科学 Healthy Longevity Science, Brain Healthcare, Brain Science

医学教育企画室

Office of Medical Education

分 野	教 授 名	主 要 研 究 概 要
医学教育企画室 Office of Medical Education	大 野 真 治 OHNO Shinji	医学教育学 Research on Medical Education



- 1

研究棟
- 2

教育棟
- 3

先端医学研究センター棟
- 4

管理・研修棟
- 5

琉球大学病院
- 6

健康医療プラザ
- 7

がじゅまるカフェ
- 8

体育館
- 9

エネルギーセンター
- 10

患者用駐車場
- 11

サービスプラザ
- 12

保育園
- 13

教職員駐車場
- 14

教職員駐車場
- 15

教職員駐車場
- 16

教職員駐車場
- 17

学生駐車場
- 18

バス停(医学部)
- 19

身障者用駐車場、バス停(病院)、タクシー乗り場

土地及び建物 Site and Floorage of the Buildings

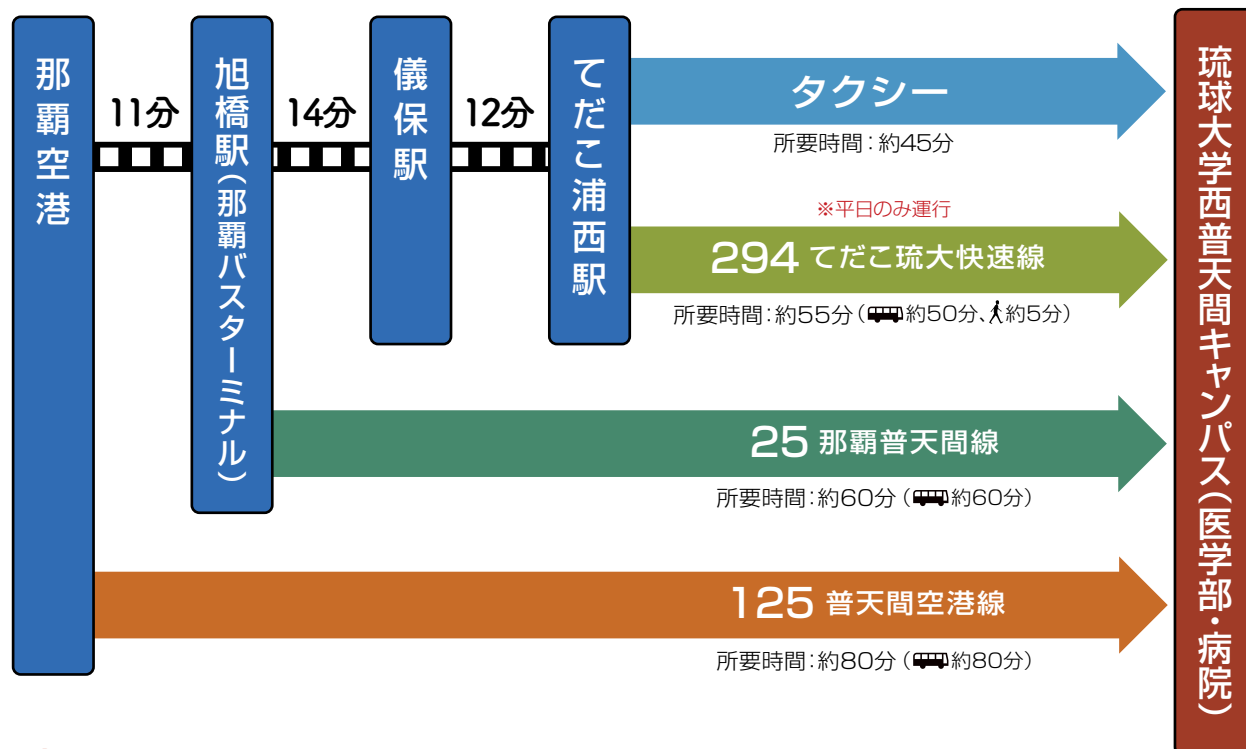
敷地面積 Site225,115.7㎡

建物総面積 Total Floorage145,992㎡

建設年度 Year of Construction

名称 Name	建面積 Floorage	延面積 Total Floorage	建設年度 Year of Construction
琉球大学病院	11,029	70,222	令和6年 (2024年)
研究棟	2,783	23,163	令和6年 (2024年)
教育棟	2,387	13,097	令和6年 (2024年)
がじゅまるカフェ	294	294	令和6年 (2024年)
先端医学研究センター棟	1,979	8,795	令和6年 (2024年)
管理・研修棟	1,400	5,547	令和6年 (2024年)
エネルギーセンター	2,545	4,232	令和5年 (2023年)
体育館	1,270	1,138	令和7年 (2025年)
健康医療プラザ	209	407	令和7年 (2025年)
廃棄物保管庫	197	188	令和6年 (2024年)
納骨堂	65	41	令和6年 (2024年)
危険物保管庫1	30	30	令和6年 (2024年)
患者用駐車場	2,950	17,344	令和6年 (2024年)
サービスプラザ	670	1,300	令和6年 (2024年)
警備室	24	24	令和6年 (2024年)
ゴミ庫	19	19	令和6年 (2024年)
個人防護具保管庫	99	99	令和6年 (2024年)
危険物保管庫2・窒素保管庫	55	52	令和6年 (2024年)
面積計 Floorage	28,005	145,992	

那覇空港からモノレール



那覇空港から

【タクシー】所要時間: 約45分

那覇空港→沖縄自動車道(西原IC)→国道330号→琉球大学医学部・病院

那覇空港→国道58号→(伊佐から)県道81号→琉球大学医学部・病院

